

第Ⅱ章 調査概要

1 調査地域

A 調査位置

今回報告する調査地域は、平城宮跡朱雀門の北方、中央区朝堂院の北側に位置する第一次大極殿院地区である。本地域は、南に向かってなだらかに下降傾斜していて、北側約3分の1が奈良山丘陵の台地に、南側約3分の2が沖積地上に立地する。東側には、壬生門の北に、北側から内裏、第二次大極殿、東区朝堂院からなる建物群が展開する。調査区については、『平城報告Ⅺ』等で報告した地域を輪郭のみ示し、本報告で対象とした調査区をアミカケで示した(図1)。

表1 調査地区・調査期間と調査面積

調査回数	調査年度	調査地区 (大地区・中地区)	調査期間	調査面積(m ²)
28	1965	6ACC-C 6ACC-F	1965.9.16~1966.3.18	3200.0
92	1974	6ACC-D	1975.1.7~1975.1.28	198.7
170	1985	6ABB-F	1986.1.29~1986.2.17	290.0
177	1986	6ACC-D	1986.10.13~1986.10.31	140.0
192	1988	6ABR-F	1988.7.4~1988.10.3	1014.0
217	1990	6ABD-R 6ABP-I 6ABQ-H	1990.7.5~1990.12.12	2985.0
262	1995	6ABP-I	1995.9.1~1995.9.6	12.0
295	1998	6ABP-I	1998.6.23~1998.11.19	2695.0
296	1998	6ABR-E 6ABS-D	1998.11.9~1999.1.18	480.0
303-13	1999	6ABO-H	1999.10.12~1999.10.14	16.0
305	1999	6ABP-I 6ABQ-H	1999.6.28~1999.11.22	1542.0
311	1999	6ABP-I	2000.2.1~2000.3.15	327.0
313	2000	6ABC-S 6ABQ-H 6ABD-Q 6ABD-R 6ABE-O 6ABE-P 6ABR-E 6ABR-F	2000.3.21~2000.4.28	479.0
315	2000	6ABQ-G 6ABQ-H 6ACD-L 6ACC-M	2000.4.3~2000.7.7	975.0
316	2000	6ABP-I 6ACC-N	2000.6.19~2000.11.6	997.0
319	2000	6ABO-H	2000.10.13~2000.12.15	100.0
337	2001 2002	6ABR-E 6ABS-D	2001.10.15~2002.8.27	1260.0
360	2003	6ABR-E 6ABS-D	2003.7.2~2003.10.3	600.0
389	2005	6ABS-C 6ABS-D	2005.3.29~2005.8.2	1776.0

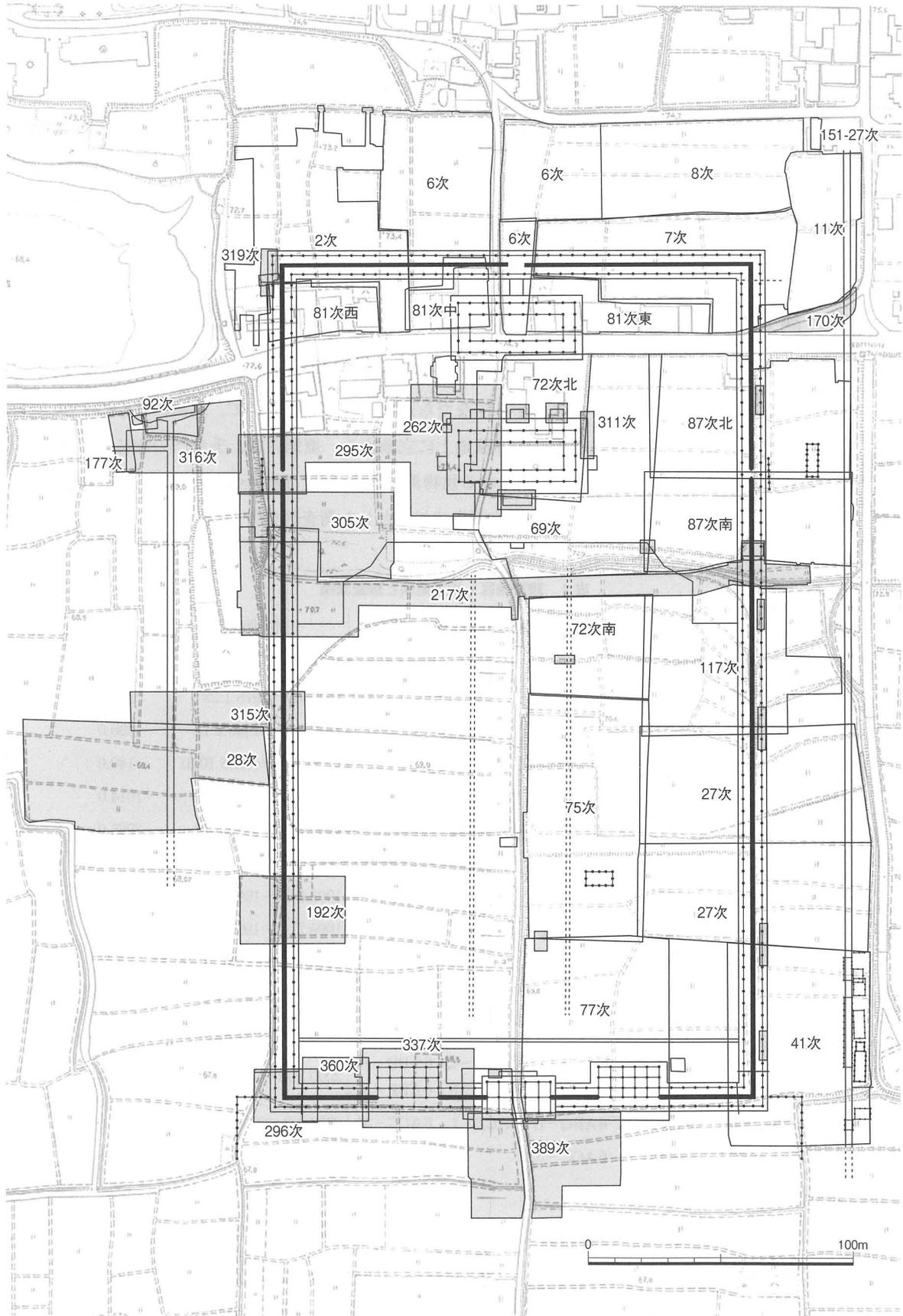


図1 第一次大極殿院地区調査位置図 (1 : 2,200)

B 測量と地区割

平城宮跡内の地区割は、本研究所の発掘調査開始時に既存の畦畔を基準とした大・中地区で区切り、さらに3mのグリッドに割った小地区を設定している。測量に使用する測地系は、1954年の調査開始当初から1988年度までは、平城宮跡独自の局地座標系（平城座標系）を用いている。平城座標系は、平城宮跡内の任意の基準点を原点とし、国土方眼座標系の方眼北に対して $0^{\circ}07'47''$ 西偏する。その後、1989年度からは国土方眼座標系（日本測地系）に変更し、さらに、2003年度の調査以降は、日本測地系から世界測地系へと変更している。座標系変更の際、地区設定上の都合から、大地区の基準となる座標はその都度修正されているが、基本的には平城座標系使用時の区画と地区名を踏襲している。そのため、隣接する調査区であっても、使用する測地系が異なる場合は、同じ大地区名でも地区割が接続しないこともあり注意を要する。本報告における使用測地系と基準点および地区名について表2にまとめた。

ところで、当研究所では2003年度の世界測地系への変更以後、それ以前の調査に関しても、世界測地系への変換をおこない報告している。本報告にかかわる調査でも、平城座標系と日本測地系を用いた調査が含まれるが、いずれも世界測地系への変換をおこない報告するものとする。なお、日本測地系から世界測地系への変換は、平城宮跡内においては、測量基準点の改測で得た座標変異量の平均値、すなわち、x座標（南北方向）+346.4m、y座標（東西方向）-261.3mを日本測地系の座標値にそれぞれ加えることで可能である。

高さの測定については、基準点からの直接水準測量を一貫して使用しており、東京湾平均海面を基準とする海拔高で表記する。

表2 各調査の測地系と調査地区

調査次数	測地系	基準点	調査地区（大地区・中地区）
28	平城座標系	No.7 -145412.550 -18322.190	6ACC-C
		-145414.932 -18539.142	6ACC-F
92	平城座標系	No.14 -145500.220 -18983.420	6ACC-D
170	平城座標系	-145146.429 -18267.535	6ABB-F
177	平城座標系	No.14 -145500.220 -18983.420	6ACC-D
192	日本測地系	No.7 -145412.550 -18322.190	6ABR-F
217	日本測地系		6ABD-R 6ABP-I 6ABQ-H
262	日本測地系		6ABP-I
295	日本測地系		6ABP-I
296	日本測地系		6ABR-E 6ABS-D
303-13	日本測地系		6ABO-H
305	日本測地系		6ABP-I 6ABQ-H
311	日本測地系		6ABP-I
313	日本測地系		6ABC-S 6ABQ-H 6ABD-Q 6ABD-R
			6ABE-O 6ABE-P 6ABR-E 6ABR-F
315	日本測地系		6ABQ-G 6ABQ-H 6ACD-L 6ACC-M
316	日本測地系		6ABP-I 6ACC-N
319	日本測地系		6ABO-H
337	日本測地系		6ABR-E 6ABS-D
360	世界測地系		6ABR-E 6ABS-D
389	世界測地系		6ABS-C 6ABS-D

2 調査の概要

A 第28次調査

【調査期間】1965.9.16～1966.3.18

【文献】奈良国立文化財研究所1966『平城宮第28. 29. 33次発掘調査概報』

奈良国立文化財研究所1966『奈良国立文化財研究所年報1966』

本調査区は、佐紀池の南約130mに位置する一段低い区域であって、小字「池尻」に属する。第一次大極殿院（調査時点では推定第一次内裏）の西辺とその外側にあたり、調査区の北部は2000年に発掘をおこなった第315次調査区と重複している。

調査区東部では、南北塀SA3853とSA3854とを重複して検出した。また、これらから西へ約4.6mはなれて、南北塀SA3855があった。

調査地西部は東部より標高が約1m低い。東寄りには南北溝SD3825があり、溝内からは木製百万塔未完成品1点・木製漆装柄頭・木簡79点のほか、土器・瓦等が出土した。木簡には、「養老七年」（723）、「天平十八年」（746）等の年紀をもつものが含まれている。2条の東西溝SD3838・SD3839は、その東部が土坑SK3833によって破壊されている。土坑SK3833は、重複して群集する土坑が一つになったもので、局所的に著しい量の瓦堆積を検出した。削平をうけて底石だけを残す石組溝SD3834は、流出口と考えられる場所に合掌形の木組施設のあるところから、暗渠であったと推定できる。

そのほか、発掘区中央にあるL字形の溝SD3845と、西端の東西溝SD3841がある。平城宮以前と考えられる遺構としては、発掘地域中央を斜めによぎる溝SD3840があり、溝底から弥生時代後期の土器が出土した。

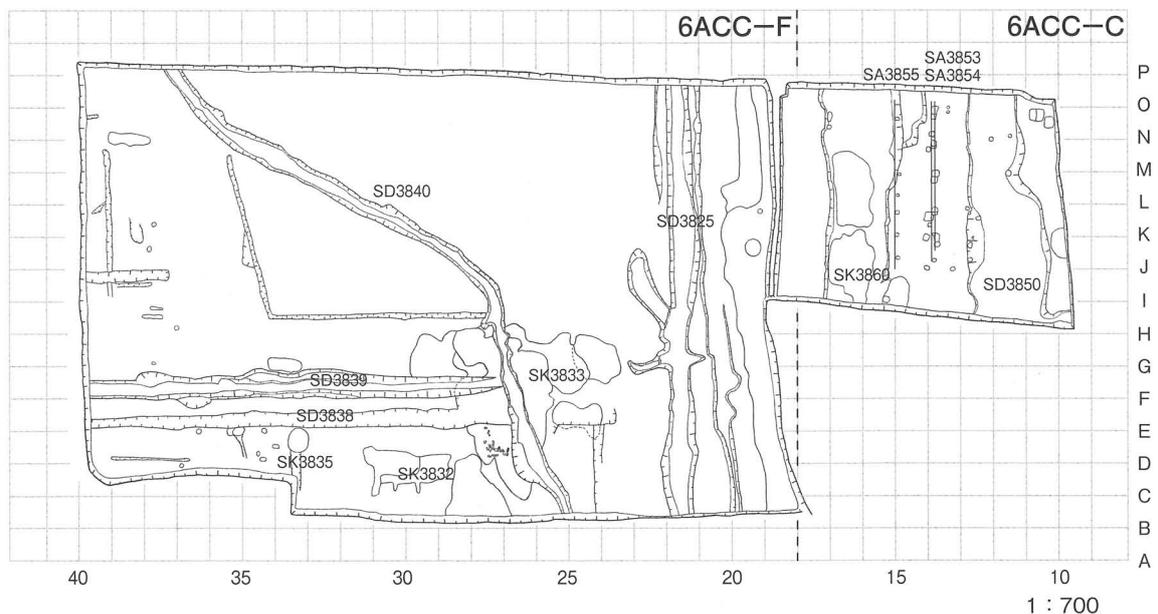


図2 第28次調査遺構図・地区割図

B 第92次調査

【調査期間】 1975.1.7～1975.1.28

【文献】 奈良国立文化財研究所1975『昭和49年度平城宮跡発掘調査部発掘調査概報』

奈良国立文化財研究所1975『奈良国立文化財研究所年報1975』

本調査区は、佐紀池西南端の堤に接する小字「池尻」にある。調査区の東に接して第一次大極殿院の西を限る高さ1 m余りの土壇があり、西は佐紀池を含む南北に延びる谷状の低地となる。第28次調査区の北に位置し、東側と南側は、第316次調査区と一部重なり、西側には第177次調査区が隣接している。本調査は平城宮跡の整備にともなう浄化水槽設置のための事前調査として実施したものであり、第一次大極殿院西外部、基幹排水路SD3825の北延長部を確認することになった。

調査の結果、遺構は大きく2時期に区分できることが判明した。

A 期 発掘区の北部が池状の低地となり、南西側と南東側が高く、北に向かって地山が下降する。中央部を第一次大極殿院・中央区朝堂院の西に接して宮域を南北に縦断するSD3825が南流するが、発掘区南端では溝肩が明瞭でなくなる。この溝および低地部分には木屑を多量に含む暗褐色土層が30～40cm程堆積していた。軒丸瓦や木簡、木製品がこの層内から出土している。木簡は「和銅六年」(713)の記載のあるものや、貢進札などがみられる。

B 期 発掘区の西南部に約1 mの盛土をおこない、SD3825を埋め立て、池SG8190を造成する(本書ではI-2期)。池と排水溝の接続部の両岸にSX8192とこれにともなうSA8191・SA8194があり、SX8192は後に北側に寄せて塀SA8193につくり替えられる。本書ではこれらをII期にあてる。

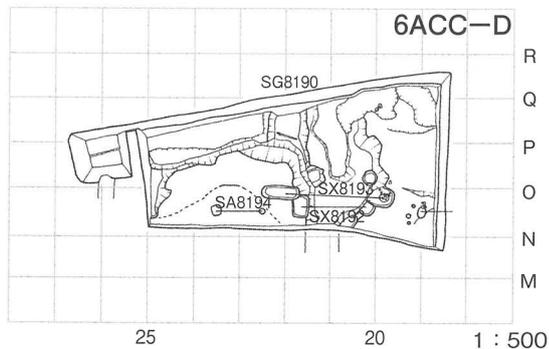


図3 第92次調査遺構図・地区割図

C 第170次調査

【調査期間】 1986.1.29～1986.2.17

【文献】 奈良国立文化財研究所1986『昭和60年度平城宮跡発掘調査部発掘調査概報』

本調査区は、県道奈良精華線の北、歌姫街道の西に挟まれる三角形の地区である。第一次大極殿院東外部にあたり、東面築地回廊の北東に位置する。北に第11次調査区、西に第8次調査区、東に第10次調査区、南に第87次調査区があり、それらによって囲まれた当地域の国有化にともない発掘調査をおこなった。

奈良時代の遺構は南北溝SD3715、斜行溝SD12341、掘立柱塀SA3777、平安時代の遺構は掘立柱塀SA8238、門SB12342である。

SD3715は宮内基幹排水路で、幅3 m、深さ1.3mである。発掘区北端で、築地塀SA8100の北側を東西に流れるSD573と合流するため、西肩が広がる。SD3715の上層は鎌倉時代の土器を含み、奈良時代以降長期にわたり溝が澱んでいたことを示す。下層は奈良時代の瓦・土器を含

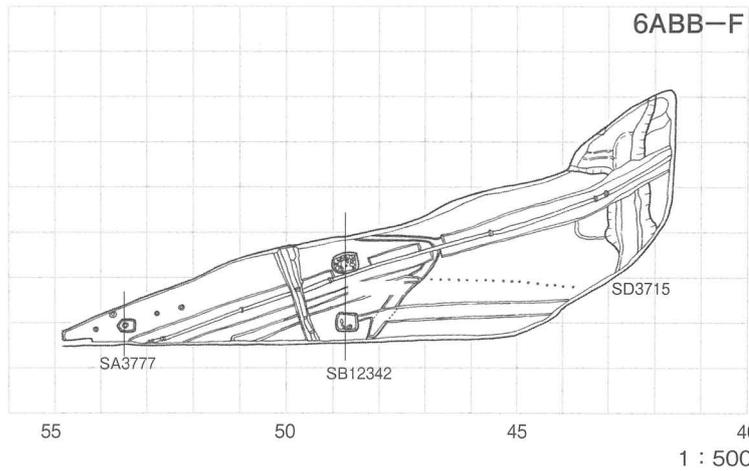


図4 第170次調査遺構図・地区割図

間は約9尺等間であるのに対し、この調査で検出した柱掘方一对の柱間は4m(13.3尺)と広く、推定大膳職地区の東南を画する築地塀SA350・SA8100に取りつく門SB12342であることが判明した。柱掘方の柱抜取穴上面には根石があり、後に礎石に建て替えられたこともわかっている。

この調査の成果は、門SB12342の検出と、南北塀SA8238が推定大膳職地区の築地に取りつくことが明らかとなった点である。奈良時代後半において、推定大膳職地区と第一次大極殿院の間の通路が、SA8238を東端として南へ直角に折れ曲がるのがここで確認できた。

D 第177次調査

【調査期間】1986.10.13~1986.10.31

【文献】奈良国立文化財研究所1987『昭和61年度平城宮跡発掘調査部発掘調査概報』

奈良国立文化財研究所1987『奈良国立文化財研究所年報1987』

本調査区は、県道奈良精華線を挟んで佐紀池の南側に位置する。東側が第316次調査区と重なっており、第92次調査区とも隣接している。本調査区では佐紀池の池岸の続きを確認する期待がもたれた。

調査の結果、奈良時代の遺構を4時期に区分した。

I-1期 2条の平行する東西溝SD12966A・SD12968 東西方向の溝状遺構SD12971がある。

I-2期 この時期には、調査区北辺部が北から南に堆積する厚い木屑層と炭層とで覆われ、さらにこの上に整地土(暗茶褐色粘質土・黒褐色粘質土・青灰色粘土)が積まれる。この整地土は調査区北端から約6m南で0.5mほど低い。I-1期からI-2期への移行年代は、木屑層・炭層から和銅年間(708~715)から養老6年(722)までの紀年木簡、平城宮土器Ⅱに属する土器、平城宮瓦編年第Ⅰ期の瓦が、整地土中からは平城宮土器Ⅱの土器、平城宮瓦編年第Ⅱ期の瓦が出土しており

むが、木片は少ない。
 N SA3777は第一次大
 M 極殿院の東辺を区画す
 L る掘立柱塀で、奈良
 K 時代前半のものであ
 J る。SA8238は、第87
 I 次調査で検出している
 H 平安時代の南北塀の延
 G 長上にあり、これと一
 連のものであろう。第
 87次調査で検出した柱

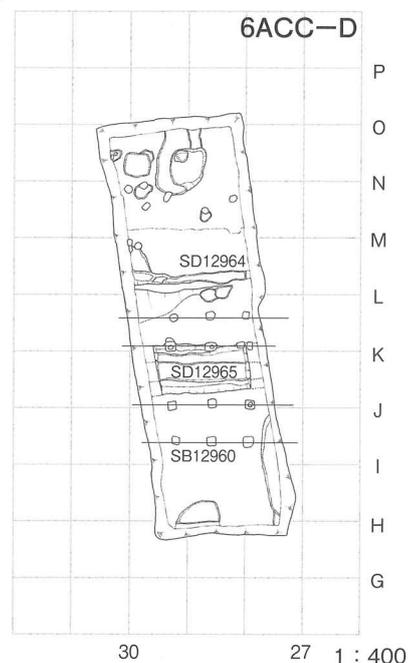


図5 第177次調査遺構図・地区割図

この他に新しい遺物を含まないため、養老年間（717～724）に限定できる。東西溝SD12965Aはこの時期に属する。

Ⅱ期 I-2期の整地土の南側にさらに土を積み、その南側に東西溝SD12965Bを設ける。この溝の埋土から、平城宮土器Vに属する土器、平城宮瓦編年第Ⅲ期の瓦が出土しており、奈良時代末まで存続していたことを示す。SD12966Bは、位置的にI-1期のSD12966Aと重なるが、溝底がわずかに高くなっている。

Ⅲ期 南北廂付東西棟建物SB12960を建てる。

この調査では、池岸を確認できなかったが、第92次調査区の池岸は排水路に向かって南に張り出すので、本調査区付近では池岸がいくぶんか北に後退すると推定できる。I-2期の木屑層・炭層は多量の削屑・檜皮を含み、この地域で養老6年（722）頃に何らかの造営がおこなわれたことを示す。

E 第192次調査

【調査期間】 1988.7.4～1988.10.3

【文献】 奈良国立文化財研究所1989『昭和63年度平城宮跡発掘調査部発掘調査概報』

奈良国立文化財研究所1989『奈良国立文化財研究所年報1989』

本調査区は、第一次大極殿院の南半部西端にあって、第28次調査区の南東、第296次調査区の北に位置している。宮内道路付け替え予定地の事前調査として実施されたものであり、西面築地回廊の検出を主目的としておこなった。

I-1・2期 この時期の遺構としては、内庭広場SH6603A（下層礎敷）、第一次大極殿院西面築地回廊SC13400、西面築地回廊東雨落溝SD13401、南北溝SD13402がある。

SH6603Aは磚積擁壁SX6600と南門SB7801との間に広がり、I期を通じて存続した礎敷広場である。西面築地回廊SC13400は、東面築地回廊SC5500を第一次大極殿院の中軸線で折り返した位置にある。SD13402は、宮造営時に掘削され、Ⅱ期まで存続した溝と推定される。

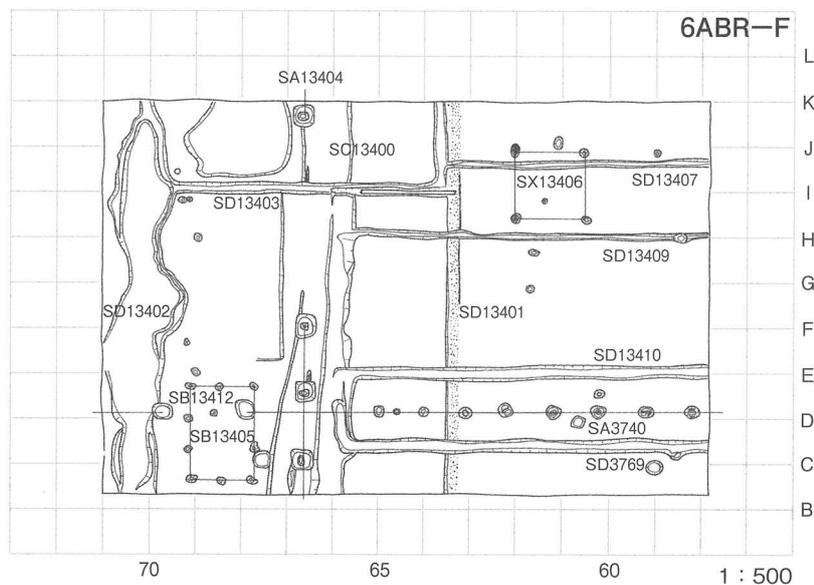


図6 第192次調査遺構図・地区割図

I-3期 築地回廊が取り除かれ、代わりに西面掘立柱塀SA13404が設けられる。これは、東面における掘立柱塀SA3777に対応するものである。SA13404は15.5尺等間であるが、本調査区の南から3番目と4番目の柱穴が3柱間開いており、開口部と考えられる。この開口部との位置関係から、掘立柱建物SB13405もこの時期のものと判断した。

I-4期 この時期の遺構は少なく、わずかに暗渠SD13403がある。これは、SD13401を東端とし、SD13402に注ぐ東西木樋暗渠で、築地回廊内からの排水をおこなう役割を果たす。これも、東面における東西木樋暗渠SD3770を中軸線で折り返した位置にある。

Ⅱ期 この時期の遺構には、東西溝SD13407がある。この時期の西面築地回廊の状況については、東面での見解と同じく築地のみが存在したと判断した。

Ⅲ期 この時期の遺構としては、SA3740、SB13412、SD3769・SD13410がある。SA3740は東西方向の掘立柱塀で、柱間は9尺ないしは10尺である。SB13412はこの塀に開く一間門である。SD3769・SD13410は、塀の南と北に掘られた素掘りの東西溝である。なお、東半部の調査ではSD13410に対応する溝は、確認されていない。

この調査で、西面築地回廊・雨落溝、さらに改築後の南北掘立柱塀は東面の築地回廊等を中軸線で折り返した位置にあることが証明された。

F 第217次調査

【調査期間】1990.7.5～1990.12.12

【文献】奈良国立文化財研究所1991『1990年度平城宮跡発掘調査部発掘調査概報』

奈良国立文化財研究所1991『奈良国立文化財研究所年報1991』

本調査区は、第一次大極殿院中央部にある。第一次大極殿院地区整備のため、大極殿前面を東西に走る旧構内道路を撤去することになり、同地区の東西両面の築地回廊および大極殿前面の広場北端部の解明をめざしたものである。旧構内道路敷部分を中心に調査区を設定し、東西両端部には築地回廊の解明のために拡張区を設けた。北側は、西から第305・69・87次調査区に接しており、南側は同じく西から第72・117次調査区に接している。

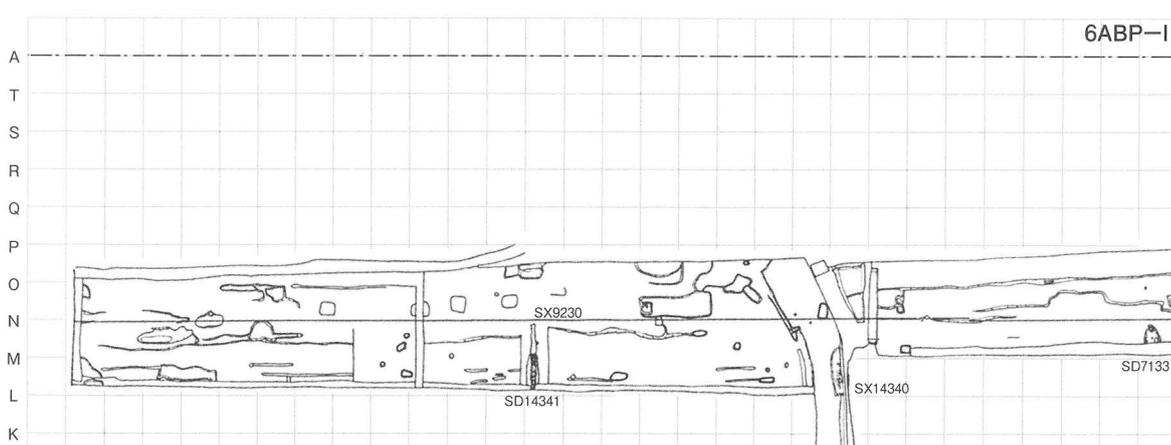


図7 第217次東調査遺構図・地区割図

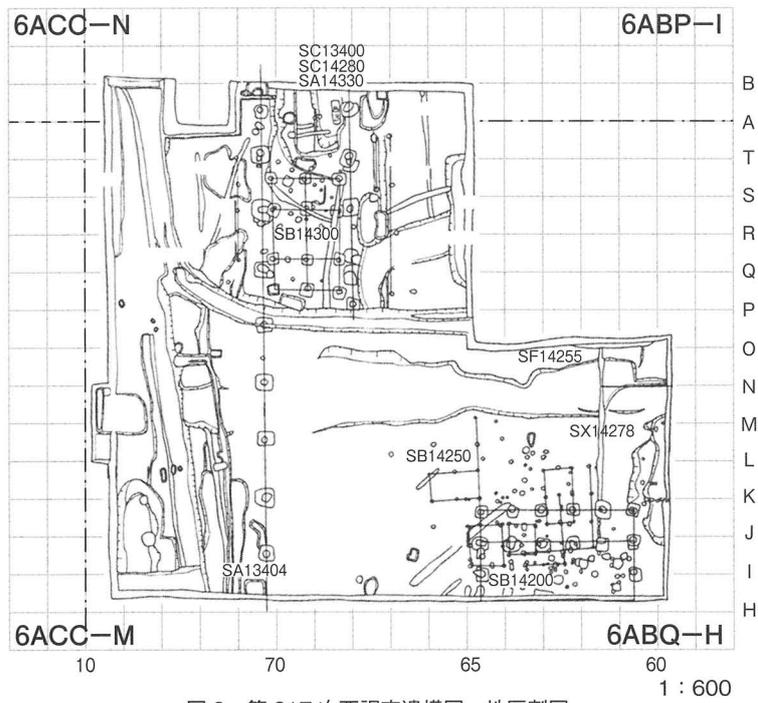
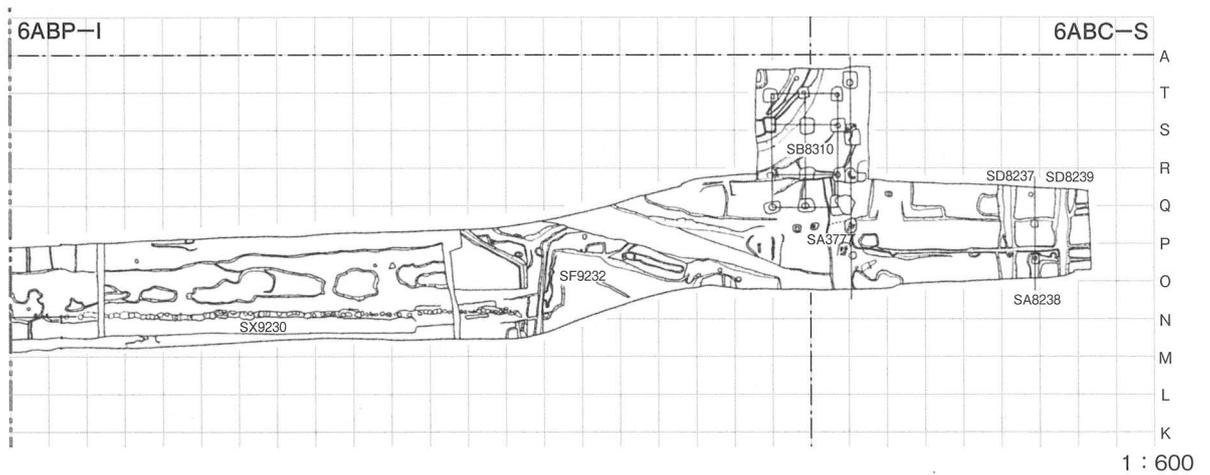


図8 第217次西調査遺構図・地区割図



調査では、西調査区において、第一次大極殿院の造営に際して、厚さ1 mにもおよぶ大規模な盛土による整地を施していることが確認できた。また、第一次大極殿院の西面築地回廊と西斜路の擁壁の状況、変遷を確認した。その結果、検出した遺構が、基本的にはこれまで調査されている東半部の遺構と左右対称の配置を取ること、そして『平城報告Ⅺ』で明らかにされたように、大きく3時期（Ⅰ～Ⅲ期）の変遷を確認でき、うちⅠ期はさらに4小時期に分けられることが判明した。

また、平安時代末から鎌倉時代初頭までとみられる炉穴を検出し、この頃には本地区に鑄銅工房があったことが明らかとなった。さらには、墓の所在等、この地区の後世における土地利用のあり方の一端も判明した。

G 第262次調査

【調査期間】1995.9.1～1995.9.6

【文献】奈良国立文化財研究所1996『1995年度平城宮跡発掘調査部発掘調査概報』

本調査区は、第一次大極殿復原設計のための地盤調査にともなうものである。調査区は、基壇西面の北西隅に近い位置で、基壇位置の確認を調査目的とした。この調査区は、のちに第295次調査において再発掘した。

第一次大極殿については、第69・72次調査で階段を含む基壇の北面および南面・西面の地覆石据付痕跡および地覆石抜取痕跡を検出している。基壇の規模は、この時点で南北29.5m（100尺）とされ、東西についても同様に、53.1m（180尺）と推定されていた。

本次調査では基壇西面の地覆石据付痕跡および地覆石抜取痕跡を検出したが、北面中央の階段の東西心Y-18,851.0から90尺西の地点は、Y-18,877.55（1尺約0.295mとした場合）からY-18,877.64（1尺0.296mとした場合）の間となり、地覆石据付痕跡の溝心実測値Y-18,877.6とほぼ一致した。これによって基壇の東西規模を180尺とした推定が正しかったことが確認できた。

H 第295次調査

【調査期間】1998.6.23～1998.11.19

【文献】奈良国立文化財研究所1999『奈良国立文化財研究所年報1999-Ⅲ』

本調査区は、第一次大極殿の西半から西面築地回廊までの範囲を占め、東区・中区・西区の3区画からなる。東区は北辺で昭和33年度調査区と、同じく東辺で第69・72次調査区とそれぞれ重なっている。東区では第一次大極殿の未発掘部分（既発掘部を含めた西3分の1）を発掘し、遺構の全貌を解明するとともに、中区では大極殿から西面回廊までの敷地造成を、西区では西面築地回廊周辺の様相を明らかにすることを調査の目的とした。

この調査で検出した主な遺構は再検出したものも含め、礎石建物1、掘立柱建物21、足場穴8、築地回廊2、築地塀1、掘立柱塀9、溝16、土坑1、礫敷2である。遺構は重複関係や建物配置より、7時期に細分した。

I-1期 築地回廊で囲んだ区画の中央北よりに、大極殿SB7200と後殿SB8120を建てる。また、大極殿の南面にSB6680を建て、西は東雨落溝SD13401をとまなう西面築地回廊SC13400で囲す

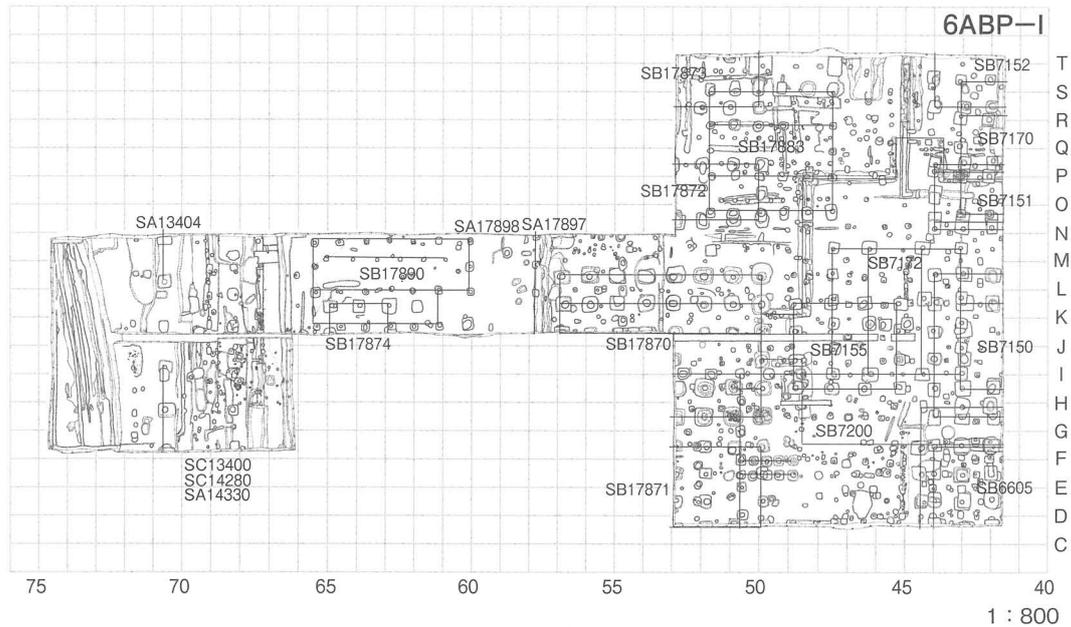


図9 第295次調査遺構図・地区割図

る。大極殿の南面中央には幅38尺、出14尺の石階を取りつける。西面築地回廊の東雨落溝は存続する。大極殿の南面階段の両脇にはSB6636・6643を付設する。

I-3期 西面築地回廊SC13400を壊して大極殿とともに移築する。その後、築地回廊の西側側柱の位置に掘立柱塀SA13404を建て、東雨落溝SD13401を壊して素掘溝SD17861を掘る。

I-4期 この時期には壇上礫敷SX17866が敷設される。

II期 壇上部分には掘立柱建物が林立する。また、I期の築地基底を踏襲した西面築地回廊SC14280には一間門SX17880が開く。

III期 E期の主殿と同じ位置に主殿が、その西には脇殿が配置される。西面築地回廊SC14280は築地塀SA14330につくり替えられる。

中世以降 東区南半部で耕作溝を、西区段差下で斜行溝を、それぞれ検出している。

調査の成果としては、まず、大極殿の北面西階段・西面階段を含めた基壇西北部を検出し、基壇の規模を確定したことが挙げられる。この成果は、二重基壇で南面中央階段を3基から幅38尺の中央階段1基とするなど、階段部分を含めた大極殿の基壇形状の復原に少なからず影響をおよぼした。

また、西面築地回廊を推定心より西に約60cmずれて検出し、合わせて東雨落溝、および創建当初の礫敷も同様に検出している。第192・296次調査では東面築地回廊からの推定位置どおりに検出したのに対し、北の第217次調査では多少西に振れる。したがって、さらに北の第295次調査区では大きく西に振れていたとも考えられた。しかし一方で、第295次西区南半で検出した幅の広いI期の東雨落溝を第217次調査区では検出していない。以上から、この溝が第217次調査区と第295次調査区の間で築地回廊を横断し、その南北と築地心がずれる可能性が生じた。また、大極殿から回廊・磚積擁壁までの敷地造成に関して、II・III期にはSB17870とSB17874の間に段差があることが推測できた。また、II・III期の西脇殿の様子が把握できたこ

とも大きな成果である。

I 第296次調査

【調査期間】1998.11.9～1999.1.18

【文献】奈良国立文化財研究所1999『奈良国立文化財研究所年報1999-Ⅲ』

本調査区は、第一次大極殿院の西南部に位置する。調査は、築地回廊の西南部分の状況を明らかにすることを目的とし、築地回廊2、掘立柱塀1、溝11、広場2、礫敷2などを検出した。各時期の遺構の変遷過程は、下記のとおりである。

I-1期 西面築地回廊SC13400と南面築地回廊SC7820がこの時期の遺構で、それぞれの雨落溝SD13401、SD17941Aも検出している。中央の礫敷広場SH6603Aは整地土のみが残るが、礫・バラスは検出されなかった。

I-2期 朝堂院北辺を画する東西方向の掘立柱塀SA17951がつくられる。この時期にはI-1期の遺構は存続していたものと考えられる。

I-3期 大極殿院の西辺を区画する西面築地回廊が撤去され、掘立柱塀SA13404に建て替えられる。

I-4期 西面掘立柱塀SA13404が撤去され、築地回廊基壇雨落溝や基壇を貫く暗渠が作り直される。

この調査の成果としては、築地回廊西南隅の基壇や一部の礎石の位置を明らかにしたことや、大極殿院内の水を排水するための暗渠などの施設を明らかにしたことが挙げられる。これらにより、大極殿院南面の東西対称性や、従来の時期区分の妥当性を再確認した。また、大極殿院広場の小礫敷を良好な状態で検出したことにより、大極殿院全体の敷地造成や復原を考えるうえで、地盤高を含め重要な情報を提供することができた。

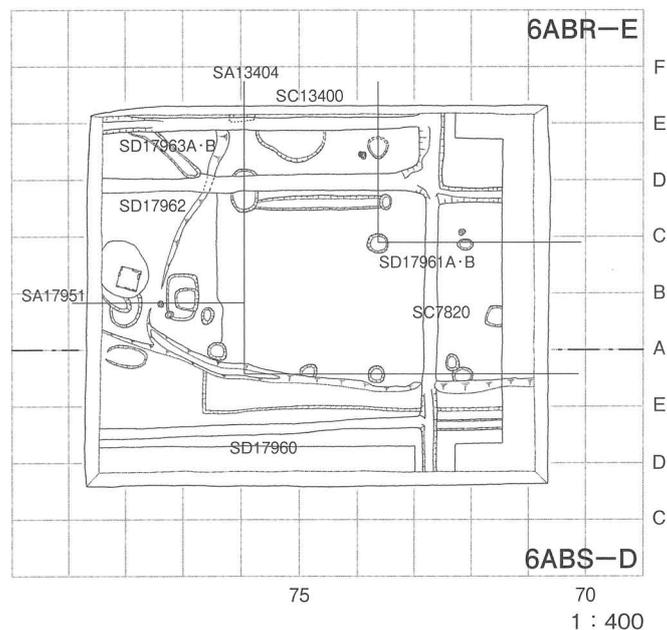


図10 第296次調査遺構図・地区割図

J 第303-13次調査

【調査期間】 1999.10.12～1999.10.14

【文献】 奈良国立文化財研究所2000『奈良国立文化財研究所年報2000-Ⅲ』

本調査区は、第一次大極殿院の北面回廊付近にあたる。1988年に平城宮内測量基準点の改測をおこない、1989年度からは局地的な「平城方位」の使用を止め、国土方位へ転換したことにより、1988年以前と1989年以降の実測図を合成しようとする、機械的に基準点の変位量分を修正しただけでは微妙なずれが発生する可能性がある。そこで、北面回廊について再発掘し、以前の実測図座標と現測量基準との関係を把握することとした。1区は第2次調査区、2区は第81次中調査区、3区は第81次東調査区、4区は第7次調査区にあたる。

再発掘した後に改めて測量した結果、実測図上での変位量と基準点自体の変位量の差は最大で69mmであり、測量誤差として許容できる範囲内であった。したがって、全体的には基準点自体の変位量を修正すればよい、ということが明らかとなった。

K 第305次調査

【調査期間】 1999.6.28～1999.11.22

【文献】 奈良国立文化財研究所2000『奈良国立文化財研究所年報2000-Ⅲ』

本調査区は、第一次大極殿の南西に位置している。第217次調査区と第295次調査区に挟まれた範囲で、大極殿前方を東西に走る磚積擁壁が南西に折れ始めるところを東端とし、そこから大極殿院西面回廊にかけて逆L字形に調査区を設定した。大極殿院の地盤や回廊の振れの問題などに加え、大極殿前面の磚積擁壁についてのデータが整備には欠くことができないことから、これらを解決する目的で調査をおこなった。

奈良時代の遺構は以下のように変遷することが明らかとなった。

I 期 第一次大極殿と後殿をのせた磚積擁壁SX6600とがあり、その前に広がる内庭広場SH6603を取り巻くように西面築地回廊SC13400がめぐり、しかし、後半期には西面築地回廊を撤去し、掘立柱塀SA13404につくり替える。

II 期 南北それぞれ狭められた回廊内において、拡張された壇上に、掘立柱建物が林立する。それらの建物は、軸線上に3棟の建物を南北に配置し、両側に複数の脇殿を配した姿が基本構成となっている。第305次調査では掘立柱建物SB18140・SB18142・SB17874を検出しており、築地回廊はSC14280につくり替える。

III 期 回廊をもたない築地塀SA14330がII期回廊と同一箇所をめぐり、築地塀の内側を多くの塀が仕切るなか、正殿を中心に掘立柱建物が並ぶようになる。建物SB18141・SB18146、溝SD18143・SD18144・SD18145などを検出している。

本調査の成果は、SA13404（I-3期）やSC14280（II期）の側柱列が、第217次・第295次の調査で検出した遺構を結ぶ直線にほぼ一致し、このことから、西面回廊は斜路起点付近から北では、約1°27'北で西に振れることが判明したことである。

また、磚積擁壁の具体的な構造について、これまでわからなかった多くの点が明らかになったことは特筆される。磚積基壇の上面、すなわち、第一次大極殿院北部3分の1の地盤面に

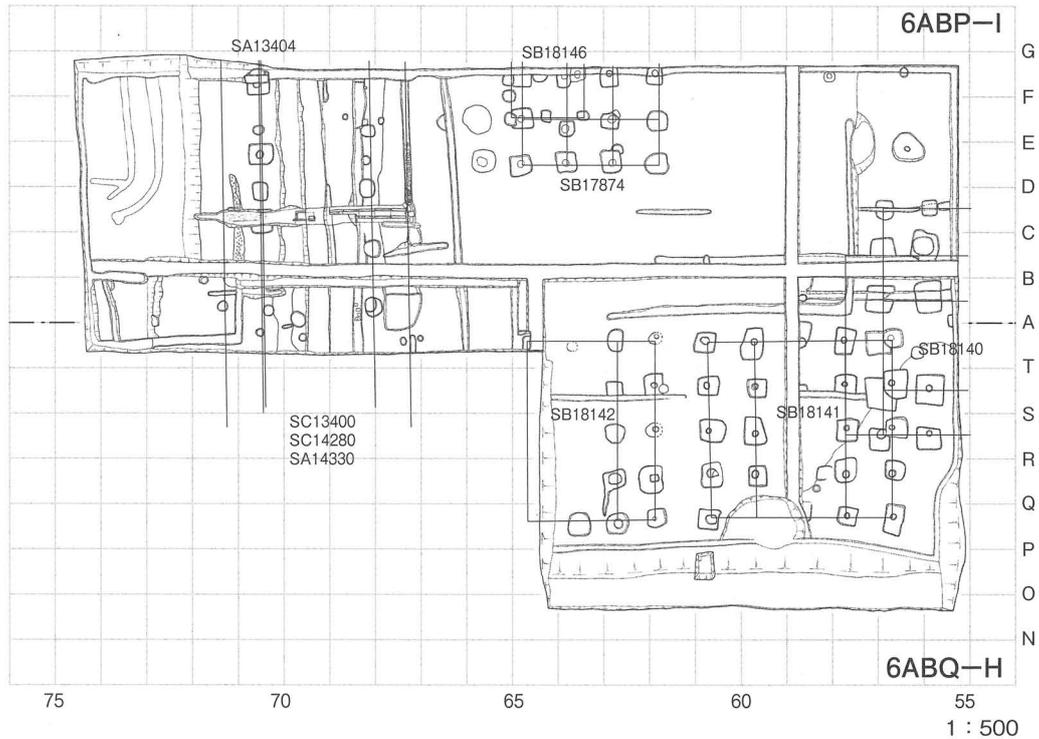


図 11 第 305 次調査遺構図・地区割図

いて明らかになったことは、出隅部分までの間については、磚は基本的に水平に積むが、そこから西では積み方が変わることである。

このほか、先の第295次調査では少なくともⅡ期からⅢ期にかけてSB17870とSB17874の間に段差があったことが想定されていたが、その間にSD18144が落差も途切れることもなく続いていることから、少なくともⅢ期にはそこに段差があったとは想定しにくいことがわかった。

L 第311次調査

【調査期間】2000.2.1～2000.3.15

【文献】奈良国立文化財研究所2000『奈良国立文化財研究所年報2000-Ⅲ』

本調査は、第一次大極殿の基壇周辺部分に対して実施した。復原整備事業は、すでに実施設計の段階に入っていたが、平面配置の正確な座標値については、依然検討の余地を残していた。大極殿遺構の東側4分の3を発掘した第69・72次北調査の測量値と、西側3分の1を発掘した第295次調査の測量値に、わずかながら誤差が認められたからである。新旧の実測図を機械的に補正し合成するだけでは微妙な誤差を残す恐れがあるため、東側の旧調査区を部分的に再発掘し、座標値を再検証することとなった。

設定した発掘トレンチは、基壇北西隅の東西3m×南北4m(A区)、北面中央階段部を含む東西8m×南北7m(B区)、北面東階段部を含む東西8m×南北8m(C区)、基壇北東隅の東西5m×南北18m(D区)、南面階段部を含む東西14m×南北7.5m(E区)、以上の5箇所であり、発掘面積はあわせて327㎡となる。なお、A区は第295次調査で発掘した部分であり、この地点の遺構を基準にして桁行方向および梁行方向の基壇寸法を実測した。

その結果、基壇地覆石の据付掘方や抜取痕跡などを新たに検出したほか、再実測をおこなうことによって旧座標値との変位量を算出した。これをもとに、基壇の規模や階段の寸法、基壇の中軸やその振れなどを確認することができた。

M 第313次調査

【調査期間】2000.3.21～2000.4.28

【文献】奈良文化財研究所2001『奈良文化財研究所紀要2001』

第313次調査は、第303-13調査や第311次調査同様、遺構の再発掘をおこなうとともに、再実測によって旧調査で得た座標値と新たに得た座標値との誤差を求めることを主な目的とした。第303-13次調査において、座標値の誤差は新旧の基準点の変位量で修正すればよいという結果を得ていたので、今回は基準点の変位量が正確には復原できない調査区を中心に再発掘をおこなうこととした。この調査では17～70㎡のトレンチを10箇所設け（F～O区：総面積479㎡）、各調査区の遺構を再測量して、確認する方法を採った。測量成果は、変位量差が基本的に誤差範囲に収まることを示しており、第303-13次調査と同様の結果を得た。

さらに、この調査で新たな知見も得た。再発掘で新たに検出した特記すべき遺構として、大極殿院南門SB7801の基壇西北部の凝灰岩敷石痕跡SX18205（I-2期）がある。これは、第295次調査で検出した大極殿基壇の地覆石痕跡の解釈に示唆を与えるものである。大極殿では幅約130cmもの据付痕跡にわずか40cm足らずの地覆石を基壇側に寄せて据えていた。すなわち、地覆石の外側には幅広の据付痕跡が広がる。これが何かは調査当初は不明確だったが、このSX18205の発見で、地覆石・敷石両方の据付痕跡である可能性が出てきたのである。

N 第315次調査

【調査期間】2000.4.3～2000.7.7

【文献】奈良文化財研究所2001『奈良文化財研究所紀要2001』

本調査は、第一次大極殿院の西方域の状況を明確にし、古代の地形復原に関するデータを得ることを目的とし、第28次調査区の北側に調査区を設定した。検出遺構の変遷と時期区分は次のとおりである。

- I 期 西面築地回廊SC13400および東雨落溝SD13401、大極殿院南庭の内庭広場SH6603がつくられる。
- II 期 築地回廊SC14280の再建。SC14280はII期末に撤去されるが、その際に出た不要瓦の廃棄土坑SK18212を検出した。
- III 期 SC13400と同じ位置に、築地塀SA14330がつくられる。この塀には穴門SB18210が取りつく。

調査区周辺の地形は、第一次大極殿院地域が尾根筋に、調査区の西部が谷筋にあっている。この調査では、その自然地形を利用・改変している状況を明確にできた。地山は東から西に緩やかに傾斜しており、西面築地回廊付近では、大極殿院を造成するためにかなりの嵩上げをしている。その分、築地回廊の西側は大きく落ちる段差になっていたと思われ、段差西側には、東西20m以上におよぶ空閑地が広がる。空閑地の西側はなだらかに落ち、その下を基幹排水路

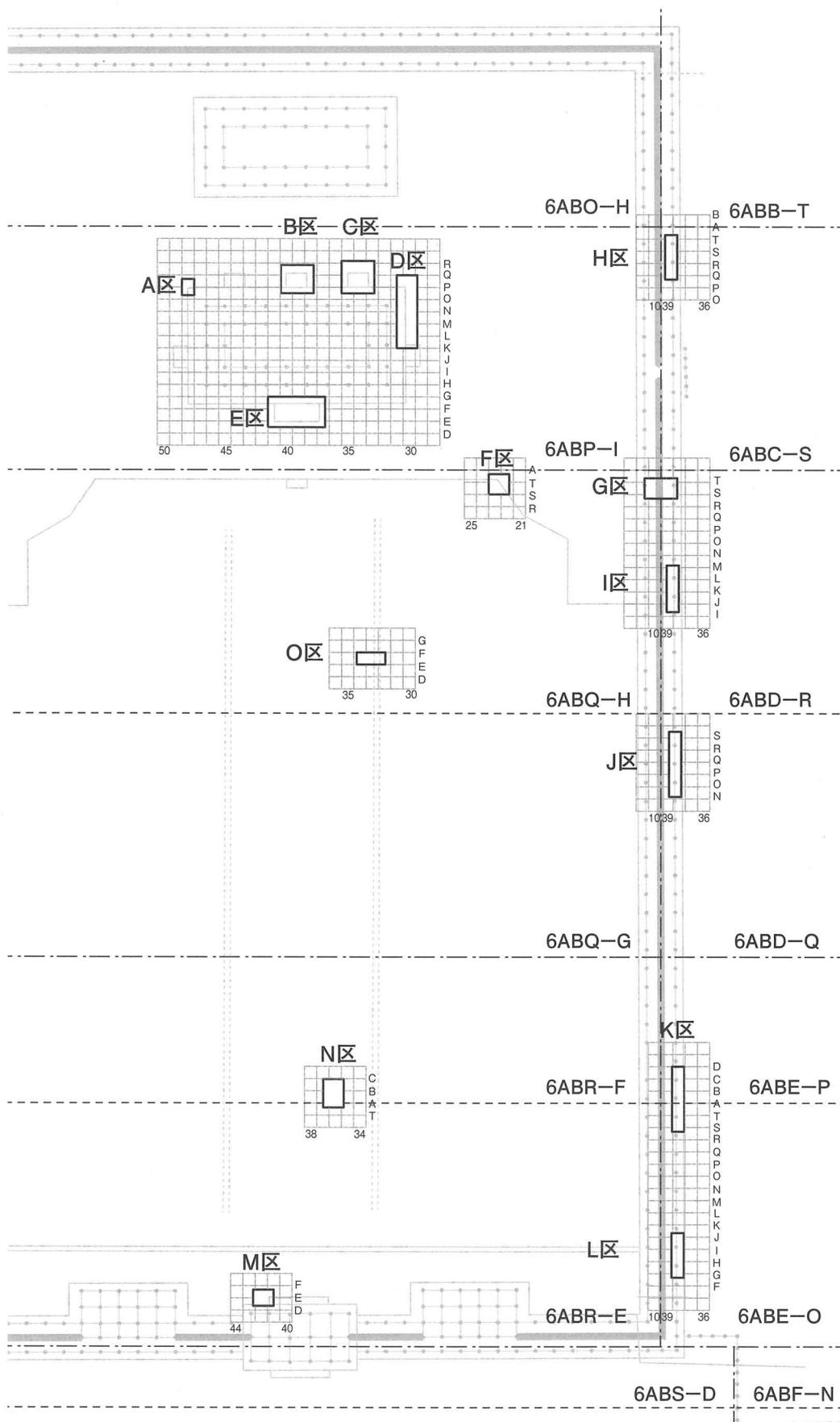


図12 第311・313次調査遺構図・地区割図

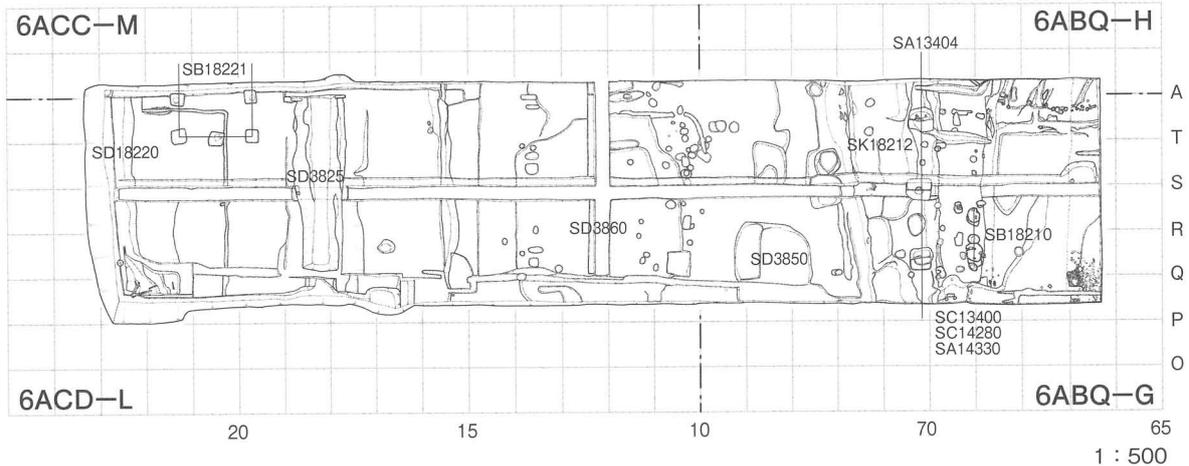


図 13 第 315 次調査遺構図・地区割図

SD3825が貫流する。SD3825の肩と西面回廊の現存最高点との比高は約2.5m、大極殿周辺の検出面とは約5mの高低差がある。SD3825の西側は平坦な低地が続いている。そこでは、南北溝SD18220と建物SB18221（ともにⅡ期）を検出しており、この地域に何らかの施設が存在したことが明らかとなったが、調査区内ではこの地域の性格の究明までにはいたらなかった。

○ 第316次調査

【調査期間】2000.6.19～2000.11.6

【文献】奈良文化財研究所2001『奈良文化財研究所紀要2001』

第一次大極殿院地域の整備計画において、大極殿院西北隅部の地形の解釈が大きな課題となった。西北隅部では、西面回廊が西側に振れ、かつ地盤面が東に比べて下がっており、第一次大極殿院の遺構が東西対称になっていないことが、第295・第305次などの調査によって明らかとなったためである。この箇所は奈良山丘陵から延びる尾根から西の谷筋への傾斜地にあたり、その谷筋には佐紀池およびそこから流れ出て平城宮を南北に貫く基幹排水路SD3825が設けられている。第一次大極殿院の西北隅部はこの谷筋の一部を埋めて造成されているため、その遺構解釈には地形造成過程の解明が不可欠であった。そこで、佐紀池およびSD3825が位置する谷筋と、第一次大極殿院が立地する尾根との間の地形造成過程と、佐紀池とSD3825の造営過程の解明とを主な目的として、調査をおこなうこととなった。

調査区は、第一次大極殿院南面回廊の西隣、佐紀池の南側の、第一次大極殿と平城宮の西面北門（伊福部門）推定地とを結ぶ平城宮内の主要な軸線上に位置している。北、西はそれぞれ既発掘の第92・第177次調査区と一部重なり、東は第295次調査区に接する。

この調査では、第一次大極殿院地域から基幹排水路SD3825にかけての地形の変遷、そして園池SG8190とSD3825の変遷が明らかとなった。すなわち、A期（本書Ⅰ-1期）に大規模な整地をおこなったのち、B期（本書Ⅰ-2期）にも整地土を積んで佐紀池の堤SX18255Aを築く。その後C期（本書Ⅱ期）にも整地土を盛り、堤SX18255の拡大や出水口のつけ替えにともなうSD3825Cの開削をおこなっていることが判明した。この地区の造営工事は第一次大極殿院地区との関係のなかでおこなわれており、両者は一連の空間として理解できる。宮内でも際立つ

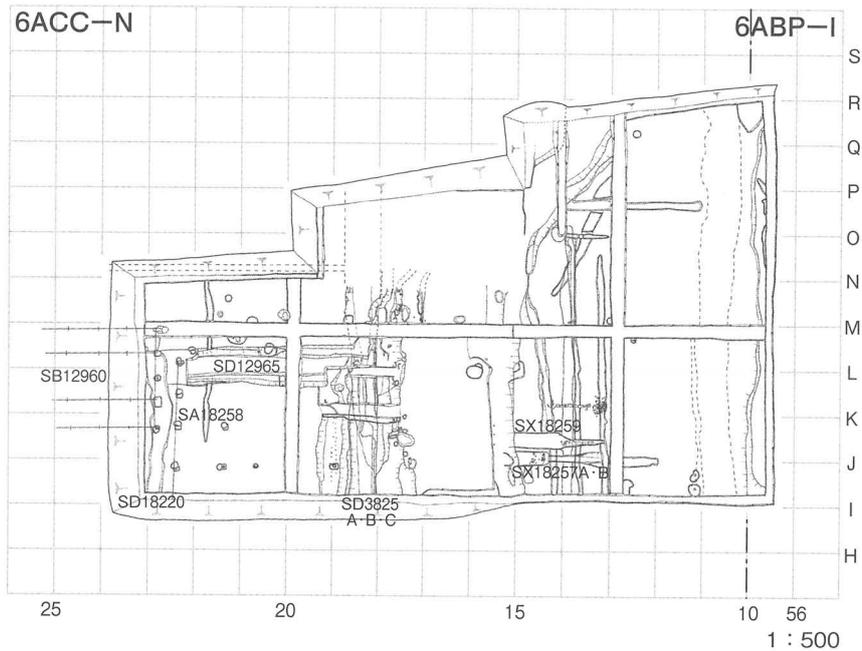


図 14 第 316 次調査遺構図・地区割図

た高低差のあるこの地域の地形が、平城遷都当初に厚く積まれた軟弱な整地土によって形成されたものであることも判明した。

P 第319次調査

【調査期間】2000.10.13～2000.12.15

【文献】奈良文化財研究所2001『奈良文化財研究所紀要2001』

第一次大極殿院築地回廊の復原作業を進めていくなかで、西面築地回廊SC13400の振れと屈曲が大きな問題となった。それらの問題を解決すべく、第2次調査区に含まれる西面回廊北端部分を再発掘することとし、I-2期までの築地回廊西北隅だけでなく、I-3期の掘立柱塀最北端の柱穴を含むと推定される位置に調査区を設定した。調査区では、奈良時代の造成土が厚さ2m以上あって、明確に地山と認定できる層は確認していない。検出した遺構は、建物および柱穴である。

懸案の西面掘立柱塀SA13404については北端2本分の柱穴を確認した。これまで西面掘立柱塀SA13404は、南北溝を含む26基の柱穴を検出している。これらの柱穴群は、北側では西にずれる傾向があり、一本の直線として計画線を復原できない。また、わずかに残った築地回廊の雨落溝側石も同様のずれを示す。一方、東面掘立柱塀SA3777は柱穴を61基確認しており、東西の掘立柱がいずれも対称の位置関係にあって、築地回廊外側柱列の中間に配されたとすれば、東西両面とも総柱数は66基に復原できる。掘立柱塀と築地基底部が併存していたとするならば、I期の西面築地回廊SC13400も同様のねじれを備えていたはずである。また、北面築地回廊SC8098の南雨落溝は、中央付近から西側が南に振れている。以上を考えあわせると、回廊北西部は南西方向にねじれていることになる。一方、第一次大極殿院の磚積擁壁SX6600より北の高い部分では、西側部分の地表面が東側に比べて低くなっている。これは、奈良時代後

半に建てられた掘立柱建物柱穴の底面レベルから確認できる。この地盤にあらわれたねじれと高低差は、平面的にはほぼ重なる範囲で認められるので、両者は連動して発生した可能性が高い。要するに、第一次大極殿院西北部は、南西に振れながら地盤が下がっているのである。第316次調査では、奈良時代以前の地表面が西に向かって傾斜した谷地形を呈し、平城宮造営時に大量の盛土をして整形したことが確認されている。以上から、次の異なる二つの解釈を導きうる結果となった。

①第一次大極殿院は東西対称の造成をめざしたが、盛土量に限界があり、おおよそ平坦と思われる程度で造成をやめて建物工事に移行したため、もともと谷地形であった西北側が低い地形となった。

②第一次大極殿院は東西対称レベルの造成を施した後、建物工事に移行したが、奈良時代の約70年間で整地部分が不等沈下しつつねじれ、さらに廃都後数百年の年月を経て、北西部分の地形全体が南西に振れ、西北部の地盤が低くなった。

Q 第337次調査

【調査期間】 2001.10.15～2002.8.27

【文献】 奈良文化財研究所2002『奈良文化財研究所紀要2002』

奈良文化財研究所2003『奈良文化財研究所紀要2003』

第一次大極殿院南面回廊では、中央に南門SB7801、その東に東楼SB7802が検出されており、東楼から南門を挟んだ対称位置に西楼の存在が予想された。本調査では西楼の位置と構造・規模の確認を主目的とした。

調査区は、推定される西楼の全域と南面回廊の一部、北側の大極殿院内庭、南側の朝堂院内庭におよぶ。調査区東辺で第77次調査区と一部重複し、西の第296次調査区とは12m離れる。2002年度調査では、さらに南側に拡張区を設けた。

検出した遺構の変遷は、以下のようにまとめられる。

I-1期 南面築地回廊SC7820が構築される。内庭広場SH6603A（下層礫敷）は、大極殿院東半で確認されていたもので、大極殿院の殿舎地区と南門の間に展開する礫敷の広場である。

I-2期 西楼SB18500が増築される。広場SH6603Aは、中層礫敷SH6603Bに改装されている。

I-4期 広場SH6603Bが、上層礫敷（SH6603C）に敷き直される。

II期初頭 西楼と南面築地回廊SC7820が解体される。

II期以降 廃絶後の築地回廊および西楼に、礫敷SX18511が全体に敷き直される。

調査の結果、南門を挟んで東楼と対称の位置に、西楼を確認することができた。規模、構造だけでなく、造営、改修、解体の過程も東楼とほぼ同じであった。築地回廊、広場を含めて東楼周辺と一連の造作であったことを示している。また、今回の調査では、基壇外装抜取痕跡など、

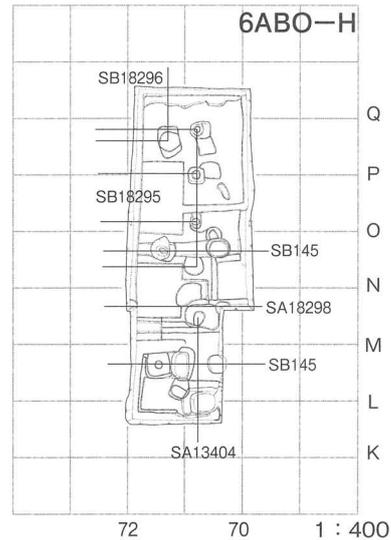


図15 第319次調査遺構図・地区割図

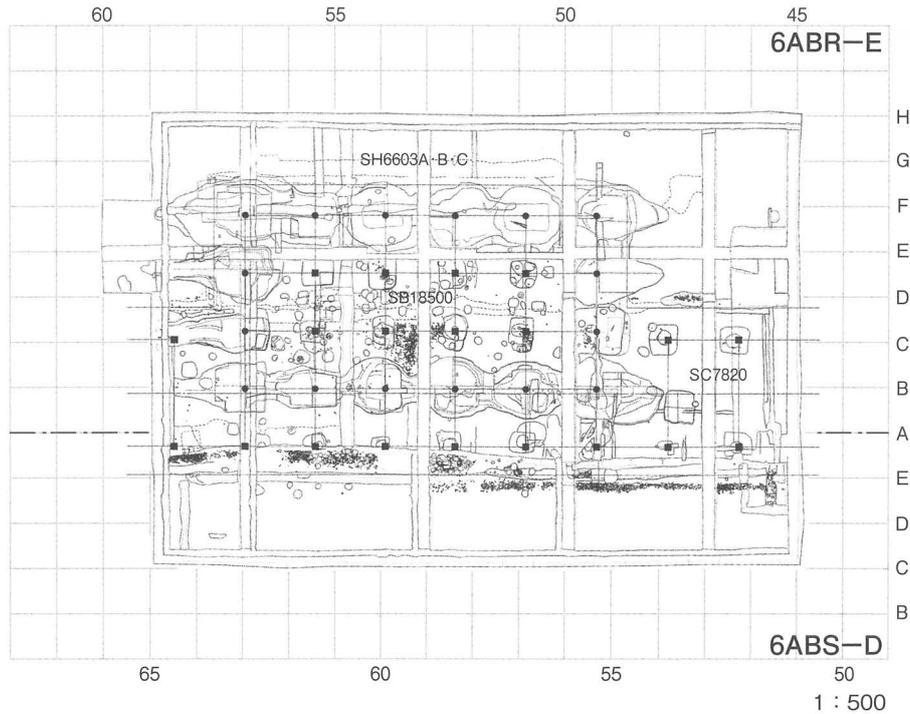


図 16 第 337 次調査遺構図・地区割図

東楼の調査では確認されていない遺構も検出した。西楼の復原考察材料になるとともに、現在進行中の第一次大極殿院復原事業に必要なデータを提供できた。

遺物では、西楼柱抜取穴出土遺物が注目される。隅木蓋瓦、礎石、ベンガラ塗りの柱などは、遺構の復原検討のための重要な資料となった。また、伴出する木簡の年紀は天平勝宝 5 年 (753) 11 月を下限とし、東楼柱抜取穴出土木簡の年紀の下限とほぼ一致する。西楼と東楼の解体手法が非常によく似ており、一連の工程で解体された可能性が高いことも考慮すると、西楼と東楼の解体時期は天平勝宝 5 年からそれほど遅れないものと推定できる。これは同時に、西楼柱抜取穴出土遺物の使用年代の下限を示す。すなわち、西楼柱抜取穴出土遺物は遺物の実年代観に一つの定点を与える基礎的資料になりうるであろう。

また、築地回廊下層の整地土から出土した和銅 3 年 (710) の紀年木簡は大極殿院、ひいては平城宮全体の造営時の様相に再検討を迫る資料となった。

R 第 360 次調査

【調査期間】 2003.7.2～2003.10.3

【文献】 奈良文化財研究所 2004 『奈良文化財研究所紀要 2004』

本調査は、西を 1998 年度の第 296 次調査区、東を 2001～2002 年度の第 337 次調査区に挟まれた南面築地回廊の西南部分を対象とした。

I-1 期 南面築地回廊 SC7820 とその雨落溝 SD18595 A・18596 A、大極殿院内庭広場 (SH6603 A)、築地回廊南側の朝堂院広場 SH18591 などを検出した。

I-2・3 期 内庭広場が改修され (SH6603 B)、回廊基壇北側に見切石列 SX18600 がおかれる。

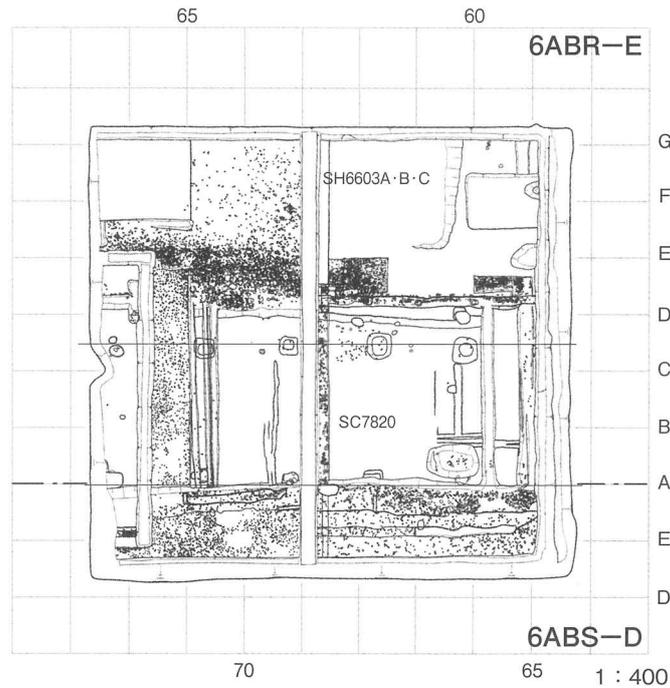


図 17 第 360 次調査遺構図・地区割図

これにともない、北雨落溝SD18595Bも新たに掘られた。

I-4期 内庭広場がさらに改修され (SH6603C)、北雨落溝がさらに掘り直された (SD18595C)。

II期初頭 南面築地回廊が解体される時期である。

II期以降 築地回廊廃絶後、旧大極殿院内庭部分全体に磔敷SX18580がなされる。

この調査で、大極殿院南門から西南隅に至る南面築地回廊西半の発掘が完了した。本調査の成果としては、まず南面築地回廊の柱位置と柱間がほぼ確定したことが挙げられる。すべての柱位置を確定することはできなかったが、推定される回廊心、桁行・梁行寸法について、これまでの知見を追認した。

また、内庭広場の変遷過程についても明らかにすることができた。とりわけ、西楼の増設にともない、内庭広場の磔敷が西楼に取りつくかたちで上昇することは今回の調査で初めて確認された。また、南面築地回廊に沿って内庭広場の中層磔敷にともなう見切石列が検出された。このほか、築地回廊南の朝堂院広場では、2面の磔敷が確認され、下層は奈良時代の磔敷である可能性が高まった。

S 第 389 次調査

【調査期間】 2005.3.29～2005.8.2

【文献】 奈良文化財研究所2006『奈良文化財研究所紀要2006』

本調査は、第一次大極殿院地区南の、中央区朝堂院地区の調査としておこなったもので、第367次および376次調査 (2004・2005年度) で検出した大嘗宮関連遺構の全貌解明が目的である。調査区は、第77次調査と第367次調査との間に位置する。調査では、主に中央区朝堂院北辺

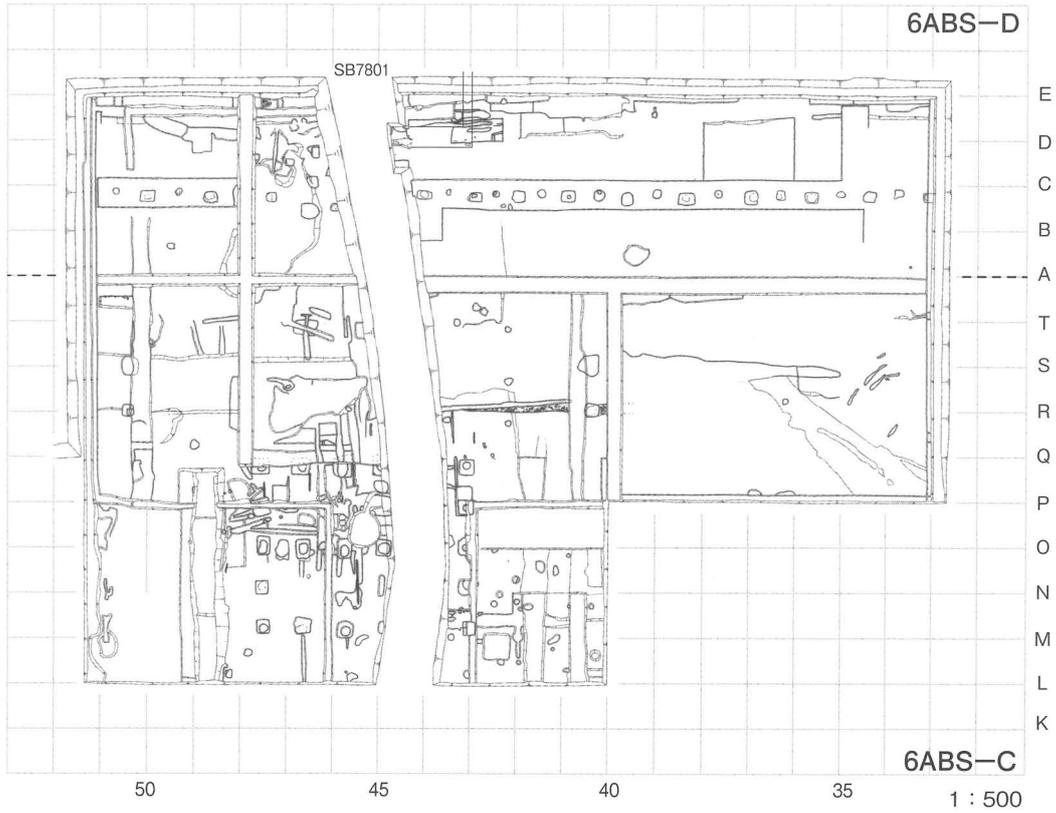


図18 第389次調査遺構図・地区割図

部の遺構を検出し、本報告にかかわる遺構としては、第一次大極殿院南門SB7801を確認した。その結果、南門の南階段のつくり替えの痕跡を検出し、造営当初の階段がのちに約1.3m南に拡大されたことが明らかになった。

3 調査日誌 (抄)

A 第28次調査 6ACC-C・F

1965年9月16日～1966年3月18日

- 11.26 排水溝の掘削。
 11.29～12.2 床土の除去。
 12.3 遺構検出の開始。
 12.6～7 東西両側から精査。L字状の溝SD3845を検出。
 12.8 東側の大きな溜りの埋土上層を除去。
 12.9 FC30地区で炭や土器等を多量に含む土坑を検出。三彩の破片が出土。
 12.10 東側は精査が26ラインまで到達。Iラインの南にサブトレンチを設置。20～23ラインにかけて急に落ち込み、FH21地区付近の最下層まで瓦・木片等の遺物を含む。凝灰岩も検出。西側の南端付近で検出した土坑SK3832からは「丹波坊」の墨書土器や瓦、木片多数が出土した。
 12.11 19～26地区の南側を精査。西側は昨日検出した土坑SK3823の上層の土器を取り上げ。付近から緑釉・墨書土器片が出土。
 12.13 雨水の排水に午前中を費やす。午後は26ラインから西を掘り下げ、青灰色粘土層を追う。
 12.14 東側南区で大きな土坑を検出。土器や瓦が多量に出土。
 12.15 Iラインより北において黒色粘土を30cmほど除去する。下駄2点、和同開珎1点出土。
 12.16 精査の仕上げ。検出遺構は東西溝6本、南北溝1本。FE21・22地区から木製百万塔が出土。
 12.17 北区は南北に走る砂層の面の連続を東から西へと追う。砂層上面より、下駄と「水」の墨書土器、緑釉陶器出土。午後は「おんまつり」のため、作業中止。
 12.18 写真撮影。
 12.21 午前中、排水作業。
 12.22 19～26ラインは排水の後に清掃。中央北区の斜行溝SD3840(断面V字形)や中央南区の東西溝を発掘。
 12.23 斜行溝を発掘中、大土坑SK3833を検出。この土坑は斜行溝を破壊している。
 12.24 昨日検出した土坑SK3833の埋土を除去。土器・瓦出土。写真撮影のため全体に掃除。
 12.25 午前中、写真撮影。午後、遺構に養生をおこなう。
 12.27 養生が終わらず、最終作業は明日に延長。
 12.28 御用納め。午前中で作業完了。
 1.10 仕事始め。実測のため、遣方を設ける。
 1.11 水糸張りは午前中で完了。午後、研究会のため作業中止。
 1.17～18 実測。
 1.19～24 (記載なし)
 1.25 所員会議のため作業中止。
 1.27 (記載なし)
 1.28 C区を昨日に引き続き、東へ遺構検出。F区22ラインの南北溝SD3825から木簡が3点出土。
 1.29 (記載なく、断面図メモのみ)
 1.31 木簡1点出土。午後3時より部員会議。
 2.1 (日誌なし)
 2.2 C区は17ラインで東に下がる。この部分の埋土の下層より土器・瓦が出土。
 2.3 C区の落ち込みは、15ライン付近で上がる。15ラインに沿って小穴5基並ぶ、間尺は5～7尺。周辺では凝灰岩片を含む小穴も。F区のSD3825はほぼ完掘。FD22地区で木簡出土。
 2.4 C区は13ラインより東へ落ちる。CM11～CL12地区、CK09地区付近に瓦の堆積。F区の溝の発掘はほぼ終了。
 2.5 FIラインより北側で黒色土の除去。付札等木簡2点出土。C区は東北隅で柱穴検出。中央部では3列の柱列を検出。東側の2列は9尺等間、4間か。西側の柱列は7尺。
 2.7 C区は清掃。SD3825の第1黒色土を除去。
 2.8 C区は午後より、写真撮影。SD3825は第1黒色土を除去。
 2.9 SD3825の第1黒色土を除去。
 2.10 SD3825の第1黒色土を除去。CL22地区では第1黒色土の下層に、木片と炭が多量に集積。
 2.11 午前中、木簡の写真撮影。午後からSD3825の第1黒色土の下層を掘削。本日は木簡3点出土。
 2.14 (記載なく、日誌裏面にLライン溝の断面土層図あり)
 3.18 発掘終了。

B 第92次調査 6ACC-D

1975年1月7日～1975年1月28日

- 1.7 床土の除去、基準杭の設置。
- 1.9 内裏検討会のため、作業は午前中のみ。西から遺構検出を開始、22ラインまで進む。
- 1.10 黄褐色粘質土を除去、灰褐色粘質土上面まで掘り下げて遺構の検出を始める。
- 1.11 灰褐色粘質土を除去、バラス層上面を検出。東壁排水溝の木片を含む最下層は落ち込みか。
- 1.13 バラス層を掘り下げながら、西側より遺構検出。東南隅近くで凝灰岩、磚など出土。
- 1.14 バラス層を下げて黒色粘土を追う。中央部では黒色粘土を下げ、青灰色粘土層を出す。
- 1.17 バラス直下の暗褐色土層を掘り下げ。その下は青灰色粘土層、木屑や檜皮などを多量に含む層、さらに炭化物堆積層、地山と続く。青灰色粘土層直上からは瓦が多く出土し、木材を含む層からは、木簡の削屑が出土した。
- 1.18 中央部の溝を挟んで対応する位置に穴を1対検出。
- 1.20 21～24ラインにかけて北半部の低い部分を掘り下げ。さらに灰色バラス層下の暗褐色粘質土層中の木屑も掘り下げ。この層は厚さ30～40cmで、大量の木屑や瓦片、須恵器小片

を含む。

- 1.21 池底西半の木屑層（暗褐色粘土層）を除去。この下層の灰色砂層より「和銅六年」木簡が出土。このほか新たに柱穴も検出。
- 1.22 残りの木屑層を取り上げた後に清掃、写真撮影。全景写真1枚終了後、雨が強まり、午後作業中止。
- 1.23 写真撮影の継続。午前中で終了。午後、遣方設置。水糸張り終了。本日より西側に、拡張区を設置して掘削開始。
- 1.24 午前中、実測。拡張区では暗灰褐色粘土層の下に暗褐色粘土層があり、その層から多量の瓦、土器片、木簡10数点、木製の杓子などが出土。その下層は木屑を多量に含む層で、さらにその下層は、黒色粘土層で遺物なし。
- 1.25 木屑層の範囲を確認するため、22ラインに南北トレンチを設定。DOラインの南辺で木屑層はなくなり、当初の池の南岸らしき肩を確認。
- 1.27 各所で補足確認調査をおこなう。北壁・東壁・西壁の断面図は大部分が完成。
- 1.28 断面図は終了。午後に拡張区を掘削。その後砂を入れ、全作業終了。

C 第170次調査 6ABB-F

1986年1月29日～1986年2月17日

- 1.29 排水溝の掘削と、西側を一部削る。
- 1.30 朝堂院検討会のため、作業は午前中のみ。西側は黄褐色バラス上面を追う。東側はバラス混灰色粘質土の下に暗青灰色砂質土がある。
- 1.31 FK41～43地区では、沼状の深い土あり。
- 2.1 第5次調査区の輪郭を出す。
- 2.3 午前中、第5次調査区を完掘。41～42ラインでは、灰色砂質土を除去し、黒灰色粘土と黄褐色粘質土との境界を検出。黒灰色粘土中から中世初期の土師器皿が出土。
- 2.4 斜行溝SD12341や南北溝SD3715、黒灰色粘土の掘り下げ。
- 2.5 南北溝SD572は、すでに検出した41ラインの南北溝と判明。なお、この溝は宮南半のSD3715上流にあたる。下水管の北では、SD3715上流の黒灰色粘土部分を掘り下げ。

- 2.6 SD3715上流、南北溝下流を掘り下げ。平城宮土器Ⅳ・Ⅴの土器多し。
- 2.7 夜間に調査区北壁が崩落。重機で崩落土を除去。水道管より北は、地山礫層の上に黄褐色粘質整地土があつて、瓦を多く含む。水道管より南は、SD3715下層を掘り下げ。
- 2.8 写真撮影のための清掃。
- 2.10 午前中は清掃、午後より写真、実測準備。
- 2.12 遣方の設置と実測。
- 2.13 レベル記入と断面図の実測。
- 2.14 北壁の削りと断ち割り。
- 2.15 47ラインの柱列は根石と思っていたが、その下に方形の掘方あり。
- 2.17 午後から作業開始。写真撮影後、砂撒き。

D 第177次調査 6ACC-D

1986年10月13日～1986年10月31日

- 10.13～14 重機掘削。
 10.15 南から床土の除去。3分の2が終了。
 10.16 床土の除去がほぼ完了。北3分の1は池の埋土か。北西部に厚い炭層あり。
 10.17 北から遺構検出。Lラインで中世の東西溝。それより南は厚い黄灰褐色粘質土を除去。
 10.18 南から遺構検出。灰色砂礫を除去し、I～Jライン間に東西に柱列(2間分)検出。7尺等間、小さい柵か。
 10.20 J～Kライン間で幅2mの東西大溝を検出。昨日検出した東西柱列は3間以上×4間、南北両廂の東西棟SB12960になる。大溝より新しい。
 10.21 J～Kライン間の東西大溝を掘り下げ。一部清掃に入る。
 10.22 雨天のため、作業は午後から。清掃の後、写真撮影。その後杭打ち。
 10.23 遣方と実測。
 10.24 柱穴断ち割り。Lラインより北に

- サブトレンチを設定し、池の汀線を追う。DN28地区の中央大土坑・DN29地区の大土坑(SK12969)を掘り下げ。木簡も出土。
 10.25 南の低い部分で暗茶褐色粘質土を除去。東側で瓦を写真撮影、後に取り上げ。
 10.27 Lライン以北の掘り下げ。北半では炭層掘り下げ。JKラインはLラインまで幅約1mで断ち割り。崩れのため写真実測できず底未確認。
 10.28 炭層下の茶褐色粘質土、およびその下の茶褐色木屑層を掘り下げ。
 10.29 茶褐色木屑層下の淡褐色粘質土掘り下げ、この下は最下層木屑層。Nラインの汀線とみたもの東西溝SD12968となる。Mラインの東西細溝SD12966とペアか。午後、写真と実測。
 10.30 東と西に幅40cmほど拡張。北西部DN29大土坑(SE12970)掘り下げ。1m掘るも井戸杵等出ず、崩れのため中止。
 10.31 拡張完了。撤収。

E 第192次調査 6ABR-F

1988年7月4日～1988年10月3日

- 7.4～13 人力で表土掘削を開始。
 7.18 表土掘削完了。調査区南端に排水溝を掘る。
 7.19 床土を除去。
 7.20 礫混り土上面で遺構検出。
 7.21 見学者用通路をつくる。FC地区の東西溝は新旧2時期に分かれる。27・75次で検出のSD3769か。
 7.22 FI60地区で柱穴を検出。
 7.23～25 遺構の検出を継続。
 7.26 南排水溝内で基壇土とみられる黄褐色粘土を検出。その東では拳大の礫敷を幅約1mにわたって検出。63ライン上の畦撤去、築地堀・雨落溝に重なるため。
 7.27 南面土層図の作成。FHライン以北、64ライン以西のマウンドは後世のものか。
 7.28 東面・南面の土層図作成。遺構検出進まず。
 7.29 柱穴や基壇土、溝などを検出。
 7.30 66ライン盛り上りと67ライン盛り上りの間に新しい溝を検出。
 8.1 黄褐色粘土の下に暗灰褐色土が入り込んでいることから、黄褐色粘土は基壇土の残

- りではないと判断。
 8.2 68ライン付近から西へ床土を除去しながら、礫混茶褐色土上面で遺構検出。
 8.3 床土と茶褐色土を除去して礫混土上で遺構検出。
 8.4 床土の除去は70ラインまで終了。
 8.5 礫混土上面での遺構検出。FB70地区から鬼瓦完形(表面一部欠損)が出土。
 8.6～21 (日誌なし)
 8.22 2週間ぶりに現場再開。東端より茶褐色礫土を除去し、灰褐色砂質粘土面で遺構検出。
 8.23 70ラインから東へ遺構検出。FB69～FC69地区で南北に並ぶ柱穴4基を検出。
 8.24 茶褐色礫土を除去しながら明灰褐色粘質砂面で遺構検出。北側は黄褐色粘土で覆われている。
 8.25 FG67地区で雨落溝らしき痕跡検出。
 8.26 先日来の柱穴は2間×3間の建物SB13405に。黄褐色粘土はすでに除去したが、回廊の版築の可能性ありとの指摘を受ける。
 8.27 66ライン東側は黄褐色粘土の上の茶褐色礫土を除去。

- 8.29 基壇想定位置の上面バラス（茶褐色礫）を除去。
- 8.30 63ラインで西面回廊東雨落溝と考えられる遺構（SD13401）を検出。
- 8.31 西面回廊東雨落溝SD13401を検出。FC・FE地区の東西溝は上記溝を切る。
- 9.1 茶褐色礫土を除去、灰色小礫上で遺構検出。
- 9.2 東端まで茶褐礫土を除去して遺構検出。
- 9.3 茶褐色礫下の小礫層を外して比較的大きな礫が残る面で遺構検出。
- 9.6 午前中は降雨のため作業中止。FDラインやや北で東西に柱穴が並ぶ（SA3740）。
- 9.7 回廊基壇東端で砂礫を除去するも、径5cm内外の礫を掘えた面を検出。
- 9.8 61ラインまで砂礫を除去し、中層の礫敷を検出。
- 9.9 中層礫を除去。FC地区東西溝SD3769とFE地区東西溝SD13410をつなぐ南北溝や、FC66地区では柱穴（I-3期の掘立柱塀？）などを検出。
- 9.10 中層礫を除去。I-3期の掘立柱塀SA13404を検出。

F 第217次西調査 6ABD-R・6ABQ-H

1990年7月5日～1990年10月3日

- 7.5 調査区の設定。
- 7.7・9 草刈り。
- 7.10～11 重機による表土除去。
- 7.12 地区の設定。
- 7.16 発掘予定地の苗木移植。
- 7.17 排水溝の掘削。
- 7.18 東から床土（黄灰褐色土）の除去。
- 7.19 東から63ラインまで進む。西は70と71ラインの間まで来る。
- 7.20 東は64ラインまで進む。西は69ラインまで進む。耕作溝の掘削。
- 7.21 西は68ラインあたりまで進む。東は65ラインと66ラインの間まで来る。
- 7.23 Jライン以南はまだ床土が残っているため、それを完全に除去し、礫敷面を出す。
- 7.24 柱穴・小穴等を検出。64地区で抜取のある大型柱穴を3基検出。8.5尺間隔。
- 7.25 東は床土・包含層除去を進める。柱穴は桁行2間分まで検出。SB9220に対応するものであろう。
- 7.26 HH62地区で小鍛冶の跡、付近に焼土混じりの穴あり。61と62ラインの間で、南北方向に置かれた磚を検出。
- 7.27 HK70地区東南隅に側柱抜取とみられ

- 9.12 66ラインでかすかな落ちを検出。基壇の落ちの痕跡か。
- 9.13 西端の南北水路SD13402掘り下げ。FI63～65地区の東西水路で木樋暗渠SD13403を検出。
- 9.14 空撮のため全面清掃。11時より空撮。午後、地上写真。3時半から遣方用杭打ち。
- 9.16 終日、遣方設置。
- 9.17～20 実測。
- 9.21 午前中は実測。午後、西端のSD13402下層掘り下げ。
- 9.22 SD13402下層掘り下げ。
- 9.26 前日の雨で西半部が水没。昼過ぎまでポンプで排水。東端から礫混灰褐色土を除去。
- 9.27 礫混灰褐色土を61ラインまで除去。空撮に備えて清掃にかかる。
- 9.28 空撮。
- 9.29 実測、断ち割り。
- 10.1 木樋の実測。壁面の分層。断ち割り。
- 10.3 断面図の作成。木樋に粘土巻きつけ。柱穴の磚取り上げ。

- る穴検出。71ラインのやや東に瓦が列をなして堆積。築地回廊の西雨落溝か。
- 7.30 南北溝3条を検出。
- 7.31 72ライン以西の1段深い所に入る。
- 8.1 道路北側の排水溝を掘削。
- 8.2 東側で北廂建物の北側柱と身舎の柱をさらに2基検出。これで東西4間目となる。
- 8.3 北廂建物5間目を検出。北側は重機を再度投入。
- 8.4 Kライン上で東西に並ぶ石列を3基検出。その北1.2mにも凝灰岩2基。大極殿東側・SB9220の北西にあるSD9236に対応するものか。北側の重機による土取りは終了。
- 8.6 61ラインから1.5m東以东については小礫層を除去。西は茶灰色整地土、明茶灰色整地土を除去。
- 8.7 東は黄褐土を除去、小礫敷を出す。北廂建物SB14200の東妻およびその西側の柱穴を確定し掘り下げる。西は南北大溝SD14270を灰色砂礫まで掘り下げ。
- 8.8 東は引き続き遺構精査。西は71地区の南北溝1の掘り上げと瓦だまりを10cmほど下げる。
- 8.9 東は遺構精査。西は瓦だまり部分の清

掃、写真撮影。70ラインでは柱穴を確認。回廊西側柱に重なる掘立柱塀か。北は床土の除去。

8.10 午前中は台風11号のため作業中止。東半部67ラインの南北線は回廊基壇掘込地業東端か。

8.13 北は床土の除去。

8.14~15 盆休みのため作業中止。

8.16 南はHH62地区炭穴の平面図・断面図作り。写真撮影。その後、南北両方から床土除去。

8.17 北で床土の除去。

8.18 北で床土を除去し、礫混黄灰褐色土(整地土か)を出していく。

8.20 北は全面で、礫混黄灰褐色土を出す。築地に開く門の柱穴を検出。

8.21 北は遺構の精査と穴の掘り下げ。

8.22~24 遺構の精査。柱穴を次々と検出。

8.29~31 構内道路のコンクリート撤去。

9.1 排水溝掘りと地区杭打ち。

9.3 73ライン以西の拡張区の掘削・検出開始。73~74ラインを南北に貫通する素掘溝を検出。

9.4 溝の精査。全体に溝の落ちは浅い。東では排水溝の掘削と遺構検出。

9.5 東で検出した磚の抜取痕跡は一部攪乱を受けるが北へ続く。北端で東北方へ広がる

が、これが屈曲点か、あるいは別物か検討必要。

9.6 西でM-N間の東西の攪乱を東に向けて掘る。71ライン付近でなくなる様子。

9.7 I期の南北塀SA13404の柱穴を3基検出。

9.10 東西両方向へ精査しながら進む。

9.11 遺構の精査。

9.12 写真のための清掃。拳大の礫の上に小粒の礫を置き、その上に黄褐色土を敷いて、I期の整地がなされている模様。

9.13 夜半の雨のため、再清掃。午後から地上写真。

9.14 夜半の雨のため空撮を午後に延期し、再清掃。その後遺方の杭打ちをする。

9.18 実測のための水系張り。

9.20 排水の後、実測。

9.21 実測の後、一部断ち割り開始。

9.25~26 断ち割り。

9.27 記者発表。

9.28 断ち割り続行。

9.29 本日現地説明会。80人程が小雨の中参加。

10.1 各遺構の掘り下げをおこなう。

10.2 遺構の掘り下げとともに、細部写真の撮影。

10.3 回廊の掘込地業西端を確認。砂撒き。

10.9~11 重機による埋め戻し。

G 第217次東調査 6ABQ-H・6ABP-I

1990年9月27日~1990年12月12日

9.27 昨日おこなった東端部分の掘削状況を確認。メモ写真撮影。

10.1 地区杭打ちのため基準杭を設置。

10.2 調査区東部の地区杭打ち。

10.3 18~28ラインの間で表土除去。北側から始める。部分的にかなり厚く耕土が残っている。

10.5 6 ABD区内から表土除去を始める。

10.6~8 台風21号のため作業中止。

10.9 11ライン付近に南北瓦列。SD8226の続きか。

10.11 東門拡張区の表土除去。

10.12 東門南妻の柱穴検出。

10.15 築地上、黄褐色土としてバラスを除去。87次で検出している溝の埋土か。

10.16 HP11地区の杭付近を通る瓦列を清掃。溝の中に瓦列がある感じ。

10.17 HP11地区で検出した瓦列を写真撮影。中央を掘り下げたところ、石を側壁とした溝と判明、SD8226であろう。寄柱の礎石も検出。

10.18 築地付近、RP39地区で柱穴検出。SA3777か。築地の東肩を検出し、SD8226に対応する東の雨落溝を探す。

10.19~20 築地より東側で検出を続行。西側では北へ表土除去を続ける。

10.22 東側ではSD8237、SA8238、SD8239検出。西側のHN38地区で検出したバラスはI期の面か。

10.23 SD8239を掘り上げ。西側は表土の残りを除去。HL39地区から石列を検出、そのため水路脇と、南へと拡張。

10.24 築地付近は遺構の精査。昨日南へ拡張した部分からは、まったく石が検出されず。

10.25 I期バラス面を追って北へ進む。

10.26 II期の土はほとんどなく、I期のバラスが広がる。217次西区との境をなす土手は取り払う。

10.29 50~59ラインの床土の除去。

10.31 昨日の雨水を排水。中央のあたりは、ほとんどバラスが出た状況。

- 11.1 バラスまでの掘り下げを北へ拡張。各所で落ち込みを検出・掘り下げ。
- 11.2 40～50ラインの清掃。HN47地区では排水溝中で検出していた凝灰岩の延長部分を検出、溝の蓋石らしい。SD7133と対称の位置である。
- 11.5 40～50ラインの清掃を継続。15時半より部員会議。本日より冬時間。
- 11.6 40～50ラインの清掃を仕上げる。周辺の片付け。標定点打ち。
- 11.7 17～26ラインあたりまでの清掃。
- 11.8 東の部分および第217次西調査区の部分の清掃。磚積擁壁、磚の抜き穴の確定をおこなう。
- 11.13 水抜きと清掃。
- 11.14 空撮と高所作業車による全景写真。
- 11.15 10時より記者発表。
- 11.16 午前中、現地説明会の準備。
- 11.17 10時より現地説明会。約90名の参加。
- 11.19 午後から遣方組み。
- 11.20 排水。遣方打ち。午後、糸張りの続き。実測開始。

H 第262次調査 6ABP-I

1995年9月1日～1995年9月6日

- 9.1 表土の除去。
- 9.4 東辺と西辺は地山、中央が整地と判明。南北溝や小穴を検出。

I 第295次調査 6ABP-I

1998年6月23日～1998年11月19日

- 6.8 調査区の設定。東区が東西34m×南北50m、西区が東西30m×南北22mとなる。
- 6.15 レーダー探査のための杭打ち。
- 6.17 フェンスの設置と電気線の埋設。
- 6.18 西村康氏によるレーダー探査。
- 6.23～25 東区にて重機による表土の除去。
- 6.26 午前中、東区の物理探査。その後地区杭打ち。午後から西区に重機投入。
- 6.29 西区にて重機による表土の除去。
- 6.30 午前中に西区の重機作業が終了。
- 7.1 床土の除去。
- 7.2 床土の除去。
- 7.3 床土の除去、遺構検出。
- 7.6 柱穴および地覆石関係の遺構を検出。
- 7.7 耕作溝の掘り下げ。Ⅲ期のSB7172の柱列がみえ始める。
- 7.8 大極殿基壇の西階段らしき遺構、およびⅡ期のSB6650の対称位置にある掘立柱建

- 11.21 実測。
- 11.22 実測。
- 11.26 降雨。
- 11.27 実測。
- 11.28 (記載なし)
- 11.29～30 台風28号のため作業中止。
- 12.1 台風の雨水を排水。東半部のみほぼ完了。
- 12.3 午前中、排水。実測。
- 12.4 断ち割り開始。東西築地回廊部で4箇所。
- 12.5 築地回廊部分の断ち割りは、築地西雨落溝の平面図・断面図を除いて終了。中央畔断ち割り、石敷断ち割りをおこなう。
- 12.6 各所で断ち割り。
- 12.7 HN45地区で検出した土坑を掘り上げ。レベル記入し、南壁実測などもおこなう。
- 12.10 排水作業ののち、10t車3台分、東の方から砂撒き。
- 12.11 砂撒き続き。午後、天候悪化のため作業中止。
- 12.12 昨日の雨水を排水後、砂撒き仕上げ。

- 9.5 実測。
- 9.6 砂を撒いて埋め戻し。

- 物SB7155を検出。
- 7.9 Ⅲ期のSA6624の対称位置にある東西塀SA17891、およびⅡ期のSB6663に対応する西側の建物SB17870を検出。
- 7.10～13 耕作溝および攪乱埋土の掘削に苦戦。
- 7.14 午前中、メモ写真の撮影。その後、西区にて床土除去。
- 7.15 東区は灰褐色砂質土の除去と遺構検出。西区は床土の除去。
- 7.17 東区は灰褐色砂質土の除去を続行。西区は床土の除去と耕作溝の掘り下げ。
- 7.21 東区はIG49～52地区でⅡ期建物SB17870の南廂柱穴列を検出。他の地区でも柱穴を確認。西区は床土の除去を続行。
- 7.22 東区は茶灰色土を、西区は床土の除去。
- 7.23 東区は茶灰色土の除去。柱穴を多数検出。西区は床土除去の継続。

- 7.24 東区ではSB6655の対称位置にある掘立柱建物SB17871を検出。Ⅲ期に属する塀も検出。西区は黄褐色砂礫土まで下げる。
- 7.27 雨天のため作業中止。
- 7.28 東区は遺構検出。西区は灰色砂質土上面まで下げて検出。
- 7.29 東区ではIライン上の東西塀を検出。西区は灰色砂質土面を追う。
- 7.30 東区でKライン以北の遺構検出。順調にⅡ期建物の柱穴を検出・掘り下げ。
- 7.31 東区ではLライン以北の遺構検出。Ⅲ期のSB7209の柱穴を検出・掘り下げ。西区は灰色砂質土を除去、バラス面を検出する。
- 8.3 東区はOライン前後より遺構検出続行。SB7209やSB6666の対称位置にある掘立柱建物などを確認。西区はバラス面まで掘り下げる。
- 8.4 東区では大極殿基壇の北階段の遺構らしき溝を検出。西区ではバラス層を除去して遺構検出。東区と西区の境界部の拡張が決定。
- 8.5 重機による拡張区の掘削。東区はSB7209の柱穴列を検出。西区は黄褐色砂質土面で遺構検出。
- 8.6 東区では南北溝や穴を検出。中央の拡張部分を中区と命名。西区は遺構検出。
- 8.7 東区ではⅡ期のSB6655の対称位置にある掘立柱建物SB17871や、Ⅲ期の南北塀を確認。西区では回廊の雨落溝を検出。
- 8.10 東区では遺構の再検出。中区では床土の除去。西区では遺構検出。
- 8.11 東区は遺構の再検出を続行。中区も遺構検出開始。西区は黄褐色砂質土まで掘り下げ。
- 8.12 東区は作業中断。中区の床土除去と遺構検出に力を注ぐ。SK17905掘り下げ。西区は掘り下げの継続。
- 8.17 中区は遺構検出。Ⅱ期のSB6663の対称位置にある掘立柱建物SB17870を検出。IK60・IN60地区でも柱穴。西区は黄灰色砂礫土の掘り下げ。
- 8.18 中区は遺構検出に加え畦の分層をおこなう。西区は掘り下げの続行。遺構なし。
- 8.19 中区は2回目の遺構検出。Ⅲ期のSB8224の対称位置にある掘立柱建物SB17890を検出。畦の土層を分層、一部写真撮影と実測をおこなう。他の畦の土層も分層。西区はI-3期の掘立柱塀SA13404らしき柱穴を検出。
- 8.20 東区での作業を再開。畦の土層図を作成。中区は遺構検出と土層図実測の続行。西区は掘立柱塀を確認。
- 8.21 東区は遺構の掘り下げ。土層図の終了を受けて畦の除去。中区も畦土層の写真撮影後、畦を除去。西区も畦を写真撮影後に除去。
- 8.24 東区と中区は境界の畦を除去、その下の遺構を検出。西区は再度遺構検出。
- 8.25 東区ではⅢ期の足場穴を検出。45ラインの南北溝の掘り下げ。西区では69と70ラインの間で門と想定される柱穴を検出。
- 8.26 東区は遺構検出しながら清掃。西区では遺構の再検出。南北池の大土坑を掘り下げ。Ⅲ期築地はⅡ期築地を再利用している様子。
- 8.27 東区は遺構検出しながら清掃。西区も遺構の再検出。
- 8.28 東区は遺構の掘り下げと清掃。西区も遺構の再検出と清掃。
- 8.31 東区は遺構検出と掘り下げ。西区は西側の崖下を調査。
- 9.1 東区は遺構の精査。IG49地区の柱穴1抜取（SB17870）からは鉄釘の東が出土。IG50地区の柱穴1（SB17870）からは軒瓦が30～40点出土。西区では礫の詰まった暗渠を検出。
- 9.2 東区と中区は細部の写真撮影。全域の清掃。西区は暗渠や南北溝を掘り下げ。
- 9.3 東区はTV放送の撮影。中区は足場穴を検出。西区は遺構の掘り下げ。
- 9.4 東区・中区ともに足場穴の検出。西区は遺構検出とともに清掃。
- 9.7 午前中は雨で作業中止。東区と中区は排水しながら空撮の準備。西区は南北溝1の掘り下げ。
- 9.8 全域で空撮のための清掃。
- 9.9 空撮および高所作業車による撮影。
- 9.10 引き続き高所作業車による撮影。
- 9.11 ヤグラによる地上写真。全撮影予定終了。中区と西区は水系配り。
- 9.14 実測。
- 9.16 台風5号の通過のため、排水をおこないながら実測。
- 9.17 午前中は雨で作業中止。中区と西区は実測の継続。作業員は草刈り。
- 9.18 東区と西区は実測。草刈りの続行。午後に記者発表準備のための打ち合せ。
- 9.22 本日、台風7号と8号がともに接近。しかし、記者発表は予定どおりおこなう（午前中）。
- 9.23 台風7号のため、作業中止。
- 9.24 午前中は雨で作業中止。午後は排水、実測。部員会議。
- 9.25 現地説明会の準備。

- 9.26 現地説明会の開催。
9.28 現地説明会の片づけをしながら実測。
9.29 東区は実測。西区は築地回廊東の南北溝を掘り下げ。
9.30 東区は実測の続き。西区はI-3期掘立柱塀SA13404が北に続く模様。
10.1 指導委員会の来訪あり。その後、実測。
10.2 実測の続行。一部、清掃。
10.5 実測と清掃。
10.6 細部写真の撮影。土層断面図の実測。
10.8 柱穴の断ち割りを始める。
10.9 細部写真の撮影。断ち割りの続行。
10.12~14 断ち割りしながら柱穴断面の層と実測。一部、写真撮影も。
10.19 台風10号通過後のため、排水。その後、断ち割りの続行と足場穴の検出をはかる。
10.20 11時より現場検討会。その後、足場穴の再検出や柱穴の掘り下げ。
10.22 午前中、写真のための清掃。午後か

- らヤグラにて写真撮影。写真を撮ったものから、断面図を作成。
10.23 写真撮影の続き。断ち割りや断面図の作成。
10.26~28 断ち割り部分の写真撮影と図面作成。
10.29 東区は砂撒きの開始。中区は実測の続行。午後、部員会議。
10.30~11.2 断ち割り部分の写真撮影と図面作成。砂撒きは中区に突入。
11.4~5 断ち割り部分の写真撮影と図面作成。溝の掘り下げ。
11.6 午後より全景写真。午前中はそれに備えての清掃。
11.9~10 実測の続行。
11.11 午前中、東院隅楼検討会。午後は実測の継続。
11.12~13 実測の継続。
11.16~19 (記載なし)

J 第296次調査 6ABR-E・6ABS-D

1998年11月9日~1999年1月18日

- 11.9 ベルトコンベアの設置。東側へ排土。黄灰色土のみを掘り下げ。
11.10 北からEDラインまで黄灰色土を除去。
11.11 ED~EBラインまで黄灰色土を除去。EC72地区で野井戸の掘方を検出。
11.12 EB~DEラインまで黄灰色土を除去。
11.13 DEライン以南で黒褐色土を外し、黄褐色バラス面を検出。
11.16 午前中、清掃。午後に写真撮影。
11.17 調査区南端部分でバラス上面を出す。この間、北半バラス面をレベル計測。コンター入れた50分の1図作成。
11.18 調査区南半ではバラス上面検出を続行。午後、写真撮影。その後、基壇土の中にと続くと思われる木樋を検出。
11.20~24 調査区南半のバラスを除去。バラス中から中世瓦器・瓦、埴輪片出土。
11.25 午前中、70ライン西方の灰色砂を除去。午後、上段バラスを南端より除去。
11.26 上段バラスの除去、南からECラインまで到達。朝堂院北面の掘立柱塀や回廊南辺の柱穴を検出。
11.27 南面築地回廊SC7820および西面築地回廊SC13400の柱穴を検出。
11.30 北辺部は精査。中央部は回廊礎石痕跡を掘り下げ。北西部は木樋のある東西溝SD17963を検出。

- 12.1 北から精査。北西隅の瓦だまりを写真撮影。
12.2 EBラインより南は基壇上の精査。EB72地区付近では朝堂院北辺一本柱塀の柱穴周辺に2m×2m程の黄色い土あり。坪地業か。東北端では基壇入隅部の瓦だまりを1m方眼で取り上げ。
12.3 午前中は瓦だまりの取り上げ。その後写真撮影。雨落溝の石列や広場部分砂利敷なども検出。掘込地業西南隅も確定。
12.4 大極殿院内広場西南隅部、砂利敷を検出。回廊雨落溝を掘り下げ。EDライン南暗渠を掘り下げ。DDライン北で、東西溝検出。
12.7 東西畦、南壁、南北畦西壁断面図作成。午後は基壇上のみ清掃。その間、調査区四周壁断面図作成。
12.8 空撮前の清掃。午後、標定点打ちと四周壁断面図作成。
12.9 午前中は清掃。11時より空撮。午後は地上写真。
12.10 午前中、地上撮影。午後は十字畦の除去。途中、柱穴等の検出。
12.11 南北暗渠SD17961、東西暗渠SD17962・SD17963掘り下げ、木樋を検出。
12.14 東西溝SD17960は、溝の未掘部分と思えたものが、実は木樋腐食陥没にともなう上層土の落ち込みとわかる。
12.15 SD17963の木樋は、上辺に蓋板を載

せる棧木を嵌めるための割りが約3尺おきにあると判明。

12.16 朝から清掃。木樋のアップ写真を撮影。実測開始。

12.17 終日、平面実測。

12.18 実測ののちレベル記入。

12.21 調査区北辺で東西に、東辺で南北に断ち割り。朝堂院北辺塀は着手のみ。

12.22 断ち割り続き。

12.24 木樋取り上げ。

12.25 SD17962・SD17963木樋取り上げ。

1.5 SD17962畦断面図作成。

1.6 SD17962畦断面図作成。調査区北壁、掘立柱塀SA13404柱穴断面図作成。

1.7 SD17962で木樋2本取り上げののち木

樋下精査。

1.8 断ち割り。断面図作成。SD17963東西端の石組を実測。支杭清掃・写真撮影。

1.11 断ち割りおよび土層断面図作成。回廊基壇西辺と朝堂院北辺掘立柱塀基壇の取りつき部。境界を平面でも検出。

1.12 断面および壁断面図作成。午後、南半部砂撒き開始。西壁、断ち割りは順次終わる。

1.13 67ライン南北溝、先行暗渠検出のため、中央東西畦の位置で断ち割り。EB71土坑断ち割り。断割⑤、図作成。北壁、図作成。砂撒き了。

1.18 埋め戻し。回廊基壇部分、やや高く盛るように指示。

K 第303-13次調査 6ABO-H

1999年10月12日～1999年10月14日

(日誌なし)

L 第305次調査 6ABP-I・6ABQ-H

1999年6月28日～1999年11月22日

6.17 現場班打ち合せ。

6.21 基準点移動。縄張り。

6.22 重機業者と現地で打ち合せ。6月25日から重機掘削開始を決定。

6.28 機械掘削。調査区北東隅から西へ約5m幅で、本日西端まで終了。

7.1 重機による表土除去を開始。

7.5 重機掘削は本日終了。南辺近くで高圧線が露出。明日それより南を残しつつ、掘削完了予定。土は朝から南西へ排出。

7.6 南辺の高圧線に注意しつつ、その北側を掘ると、意外と盛土が厚いと判明。

7.7 排土の搬出を重機でおこなうなか、4名で地区ピン落とし、高低差を考えながら、要所にトランシットで落とす。昼前終了。

7.8 現状の略測図を作成。磚積擁壁の南半は攪乱で破壊されている模様。

7.9 前日の埋め戻し分を固めるとともに、U字溝もトレンチ東端で南へつけ替え。

7.12 朝、地区ピン割り振りおよび地区名表示、10時までには終了。

7.13 本日より人力掘削。灰色耕土を除去し、遺構の精査を56～57ラインまで、東からおこなうが、調査区北半では灰褐色砂質土土面で穴・耕作溝を検出。

7.14 発掘区東端で掘削。耕土直下の灰褐色(砂質)土を徐々に掘り下げる。

7.15 調査区東壁を断ち割り気味に下げ、土層の状況を確認。

7.16 前日に引き続き、排水溝を掘り、土層確認しながら、遺構面をめざす。

7.19 調査区南半では、畦以东について黄色土を全面検出。

7.21 69ラインの南北畦を越えるところまで平面検出を試みる。

7.22 69ラインの畦を越え、検出作業を西へと進める。昨日検出した柱穴はⅡ期脇殿のものか。

7.23 南北畦の西、東西畦の北(6ABP地区)で遺構精査。

7.26 59ライン畔の西側で遺構検出。北半は礫混じりの橙褐色土を剥いで、黄褐色粘質土と赤褐色砂質土(礫混じり)の入り混じった地山面を露出させる。

7.27 北半の遺構検出を中止。6ABQ地区、南北畦西側を、Ⅲ期南北棟柱穴を検出しながら掘り下げる。

7.29 前日に引き続き、遺構検出を西へ。62ライン付近で、軒丸瓦・軒平瓦の入った柱穴が姿をみせる。

7.30 6ABQ-H地区の堆積土の重機掘削、午前で終了。ようやく手掘り作業へ。

8.2 6ABP地区と6ABQ地区に分かれて遺構検出。6ABQ地区ではこれまで検出した

面の続きでようやく西壁へ到達。南北棟にかかわる柱穴は北妻で1穴検出。

8.3 東と中央に分かれて発掘。東班1班は、調査区北東で黄褐色土を掘り下げ、暗灰褐色土面を出す。

8.4 黄褐色の地山ないし整地土まで除去。第217次重複部分にようやく到達。65ラインまで終了。

8.5 中央区は前日に引き続き、小型重機で表土を剥ぎつつ遺構検出(65~68ライン)。北から続く南北棟は完結。

8.6 西面回廊の基壇を立体的に露出させる。東西畦以北は69~70ラインまで表土除去。この時点で、回廊の最高部が残りよく、東雨落溝の落差、顕著なること判明。66ライン西側の溝確定。

8.9 重機に追いついたため1個班を東へ廻す。重機は耕土のような土を除去して北へ。掘削を止めた面でも南北の耕作溝あり。

8.10 午前中は重機で排土。2班を東のベルトコンベアへ投入。

8.16 Ⅱ期東西棟SB18141の西妻を検出。

8.17 引き続き、回廊上面検出。70ラインから72ラインくらい。

8.18 72ラインの段差西側、地山ないし整地土上面で遺構検出。

8.19 前日に引き続き、73ライン付近から調査区西壁まで、堆積土除去。基本的に、橙灰色土の地山が広がったが、崖面近くではその上の灰色砂が残っている。

8.20 前日みつけた屈曲溝1を掘り上げ、水を抜くことにする。同時にその東側テラスを最終清掃。

8.23 本日より、調査員勢揃い。1班は東、2班は西で遺構検出。西側は65ラインの穴確定後、西へ。66.5ライン付近まで進む。

8.24 66ライン西より検出。ID67地区付近のバラスは、凝灰岩暗渠東端より、西まで伸びる。ここでは新→古でいうと、バラス(粘土)→東雨落溝埋土(粘土)凝灰岩抜取→機能時回廊。

8.25 前々日に引き続き、2班西側、1班東側。西では、67ラインの西を調査。ID68地区にはほぼ完形土器が3個体並ぶ状況あり。

8.26 Ⅲ期の築地塀SA14330の東縁を検出。この延長は68.3付近までフラットに延び、またそこで溝状に落ちるようだ。

8.27 68ラインより西へ。ただし、東雨落溝上付近のバラスを露出させる。

8.30 東は午前十字畦より南東側のブロックを光波測距儀で割り付け実測へ。作業

は畦の西側を60~61ラインまで穴を掘り下げながら進む。

8.31 ベルトコンベアは61ラインから62ラインへ。南半では柱抜取穴を掘り下げ、北半では礫の多い土を除去しつつ西へと進む。

9.1 67ライン付近から西へ、バラスを外す。

9.2 67ライン西で東雨落溝SD14290を検出。63~64ラインまで遺構検出。62ラインの柱穴は依然掘方弱いか。

9.3 西面回廊暗渠SX18160と東雨落溝との関係をみる暗渠内断割土層図を作成。63~64ラインでは遺構検出。

9.6 Ⅲ期築地塀の東裾が掘り切っていないことが判明したので、これを仕上げる。

9.7 65ラインより西へ検出続行。他と組まない穴をみつけつつ、66ライン西の溝に到達。

9.8 南東部クレーン空撮に向けて清掃。

9.9 地上写真を撮影。

9.10 朝から実測。全域に水糸を割りつける。

9.13 朝より、磚積擁壁部を断ち割る作業。

9.14 実測ほぼ終了。

9.16 雨の合間に作業。図面チェック終了。磚積擁壁SX6600の検出は続く。

9.17 磚積擁壁部の撮影をめざし、清掃。本日は磚転落状況を撮影。

9.20 磚積擁壁清掃。目地にはやはり粘土使う。

9.21 雨天のため空撮を延期。

9.24 台風の心配ありながら、記者発表。

9.26 現地説明会。10時集合、会場準備など各人着手。1時半より、予定通り挙行。

9.28 磚積擁壁完全撮影。空測。午後ベルトコンベアを東西畔北1mに並べ、西半断ち割りへ。調査区北壁も断ち割り。

9.29 昨日の続きで、東西畔北面際、調査区北壁~東壁際断ち割り。

9.30 断ち割り続行。東西畔北面。調査区北壁ほぼ終了、一部実測開始。磚積擁壁実測続行。

10.1 断ち割り続行。東西畔北壁終了。調査区北壁も終了。西面回廊掘立柱塀、終了。総柱建物、Ⅲ期南北棟終了。

10.5 断ち割り、東西畔西半分層終了。柱穴、南西区終了(図、写真類も)。磚積擁壁は南北とも基底まで掘り下げ。

10.6 磚積擁壁は南区補足実測。

10.8 断ち割りは、十字の南北畦へ。

10.12 南北断ち割り続行。

10.13 断割で整地土底と思われた面は、造成の大きな工程差を反映するが、いまだ底部にあらず。明日以後、分層・図化。磚積擁壁

の屈折部で断ち割り。釘が2本、Ⅱ期穴から出土。磚上面が露出する。

10.14 磚積中区検出続行。

10.15 現場検討会を実施。磚積擁壁の復原像について議論する。

10.18 柱穴の埋め戻し開始。

10.19 埋め戻し続行。

10.20 南北断割埋め戻し。調査区北壁埋め戻し。調査区東西畦埋め戻し(中途)。磚積中区磚立面図実測終了。調査区東壁実測。西回廊暗渠実測。回廊～Ⅱ期南北溝、断割実測。磚積南区写真。

10.21 前日から引き続き、畦際断ち割り箇所を埋め戻し。

10.22 埋め戻し続行。磚積状況最終確認。夕刻現場完了。

11.4 調査区の埋め戻し開始。

11.9 磚積擁壁付近を残して埋め戻し終了。

11.16 京都科学が磚積擁壁の型取り作業開始。シリコンがけ。

11.17 シリコン面に布、その上からシリコンを塗布。

11.18 磚部分石膏、枠づくり。

11.19 取り上げ、色見本取り。磚のサンプル2点持ち帰り。

11.22 磚の目地裏込め土、保存科学高妻氏により採取。磚1点をめくると下の磚との間に厚さ5mmくらいの土を置いていると判明。これにて現地作業終了。

11.25 埋め戻し。

11.26 重要地区埋め戻し終了。

12.3 現状復旧作業終了。

12.10 確認写真。

M 第311次調査 6ABP-I

2000年2月1日～2000年3月15日

2.1 調査区の縄張り。

2.2 A～C区の重機掘削。

2.3 C～D区の重機掘削。

2.4 C・E区の重機掘削完了。

2.7 人力掘削開始。

2.8 E区(南面階段)を西から掘り下げ。階段地覆石痕跡の2点と旧釘の座標値を測量した。階段地覆石痕跡の溝の中心(2点の midpoint Y座標)はY-18,595.334で、第69次実測図との差は約32cm。

2.9 引き続き、E区の遺構面を検出。E区の東端の手前まで終了。

2.10 E区で遺構面の検出。過去の調査の実測図にない柱穴3基と溝の埋土を検出。

2.14 D区を検出を南端から始め、中央の畦(69次のもの)まで進んだ。基壇地覆石の掘付掘方を検出。

2.15 E区で実測の続きとD区の拡張を開始。基壇の掘付跡は拡張部分でも続いているようだ。E区の実測は、全体の3分の2が終了。

2.16 E区の実測終了。D区の基壇北東隅を新たに検出。D区の北から3分の2程度まで進む。

2.17 D区の遺構検出終わり。拡張部の南部分は階段地だが痕跡なし。C区の遺構面検出を始める。

2.18 D区の実測開始。C区の遺構面の検出は西側から3分の2まで。北面東階段の北西部分で掘付掘方がみつかる。

2.21 D区の実測とレベル記入。

2.22 C区～E区の排水作業ののち、E区のレベル記入とC区の実測作業。

2.23 C区の遺構面清掃と並行して柱穴の掘削。午前、C区の実測を終え、実測開始。B区の実測始まる。

2.24 C区の実測およびB区の実測。

2.25 B区の実測はほぼ終了。C区の実測、レベル記入完了。

2.28 明日の写真撮影に備え全調査区を清掃。

2.29 写真撮影。

3.1 A・B区の水糸張り。A区の遺構を295次の実測図と比較し、ずれは数cmであった。

3.2 B区の実測を完了し、A・B区のレベル記入。

3.3 標定点測量。杭打ち、ターゲットの取り付け。座標・標高の測量。

3.6 排水ののち、ゴミ拾いと排土の整形。

3.7 空撮準備。清掃や周辺の整地など。

3.8 空撮。埋め戻しの前に撒く砂が届く。

3.10 D区では東西畦の北側で断ち割り、断面図作成。E区では地覆石痕跡を再実測し、断ち割り。A～C区とD区の南半に砂撒き。

3.13 E区の断割で断面図作成。

3.14 断割部分(D・E区)の周辺のレベルを測り、赤鉛筆で実測図に記録した。E区断割部分の凝灰岩取り上げ。D・E区で砂撒き。

3.15 埋め戻し。調査終了。

3.16 埋め戻し終了。

N 第313次調査

6ABC-S・6ABQ-H・6ABD-Q・
6ABD-R・6ABE-O・6ABE-P・
6ABR-E・6ABR-F

2000年3月21日～2000年4月28日

- 3.21 縄張りした3箇所をそれぞれF区・G区・H区と呼ぶ。重機掘削を開始し、F区で終了。
- 3.22 G区の表土掘削終了、H区もほぼ終了。
- 3.23 重機掘削完了。
- 3.24 人力掘削開始。
- 3.27 F区で磚積擁壁SX6600の最下段を検出。H区の検出作業ほぼ終了。
- 3.28 I区で重機掘削開始。
- 3.29 重機掘削の続き。J区完了し、K区は北側半分ほど終了。I・J・K区に杭とトラロープで柵を作る。
- 3.30 K区で重機掘削は終了、L区は途中。K・L区はととても深い。H区・I区で遺構検出完了。
- 3.31 L区の重機掘削終了。M・N・O区は4月以降で、奈文研の小型重機を使うことにする。
- 4.3 M区で重機掘削と、N・O区の縄張り。
- 4.4 清掃・写真撮影。F～J区まで撮影終了。
- 4.5 K・L区の検出作業は終了せず。G～J区の水糸張りとはH区の実測。K・L・N区で表土掘削。
- 4.6 K・L区で検出作業。O区の重機掘削終了。G・H・I・J区はレベル記入。

O 第315次調査

6ABQ-G・6ABQ-H・6ACD-L・
6ACC-M

2000年4月3日～2000年7月7日

- 3.31 午前中、番長と現場班で話し合い。発掘区を決める。
- 4.3～11 重機掘削。
- 4.12 畦を設定、幅80cm。
- 4.13 回廊マウンドの東側斜面で黒土を除去し、黄土色粘質土を出す。
- 4.14 排水溝掘削。
- 4.17 回廊マウンド西斜面の掘り下げ。
- 4.18 回廊マウンド西斜面、一部、回廊マウンドの西側の掘り下げ。
- 4.19 313次の砂入れ作業終了後、昨日の続

- 4.7 K・L区、写真撮り直し。M区では検出、写真撮影。K・L区ほぼ終了。
- 4.11 K・L区で実測・レベル記入終了。N・O区の検出、終了。
- 4.12 N・O区で写真撮影、実測。
- 4.13 F区・M区で実測。M区では大極殿院南門SB7801の北側で、凝灰岩の敷石痕跡SX18205を検出。
- 4.14 F区・M区、実測完了。
- 4.17 M区の精査。
- 4.18 M区の精査・写真撮影・実測など終了。
- 4.19 砂撒き（M区以外）。F区では磚積擁壁SX6600の東入隅部を精査。M区では、SD7806の南から2番目の石を除去し、凝灰岩との上下関係を確認。
- 4.20 重機で埋め戻し。M区以外は埋め戻し完了。
- 4.21 M区以外、終了写真を撮影。
- 4.24 M区の精査と断ち割り。上層雨落溝の北側の上層バラスを削り、凝灰岩を検出。
- 4.25 M区の精査と断ち割り。
- 4.27 M区の精査と断ち割り。
- 4.28 M区の実測・写真撮影ののち砂撒き・埋め戻し。

- き。
- 4.20 回廊マウンド西方の掘り下げ。
- 4.21 昨日の続き。バラス面がきれいに出てくる。
- 4.24 二手に分かれて掘り下げ。西側の班は、午前中は排水溝掘り。
- 4.25 1班ずつ、二手に分かれて掘り下げ。
- 4.27 二手に分かれて掘り下げ・清掃。
- 4.28 バラス面・SD3825の清掃。写真撮影ののち、東端にベルトコンベアを入れ、掘り下げ開始。

- 5.1 朝から東西2班に分かれて発掘。東側では橙褐色土を掘り下げ。その下の黄色礫混じり整地土を築地東側の範囲でめくって出した。
- 5.2 第28次埋め戻し土を重機で除去。68ラインの辺りは、比較的大きな礫が集まる。礎石の根石か？
- 5.8 第28次調査区の埋め戻し土を手掘り。67ラインでは見切石とバラスあり。見切石はGQライン付近で途切れる模様。
- 5.9 掘り下げ開始。版築の最上面の土が残存したものか？1班、築地の版築層を出す。
- 5.11 午後から1班、昨日の続きで掘り下げ。この辺、層位が見にくくなる。
- 5.16 瓦層が東に延びる。瓦層の上面で掘り下げを止める。
- 5.18 耕作溝を多く検出。掘り下げる。上段で見落としていた溝だろう。1班の作業員が、バチで掘り下げ。
- 5.19 13～14ラインの中間から東、検出面に瓦が多く顔を出している。
- 5.22 瓦敷を露出させて写真撮影。瓦敷面でレベル記入。午後は瓦敷を外す。終了時、この辺の礫敷を、写真撮影。
- 5.23 φ2～3cmの礫層（バラス面）を出した状態で写真撮影。版築土の面まで掘り下げ。
- 5.24 土坑の右側を検出。完形で投棄された土器は、樹脂を塗って補強。遺物に番号を付す。
- 5.25 新しい土坑、掘り上げ。
- 5.30 SD3825の西肩を検出し、灰色砂を掘り下げ。
- 6.1 SD3825は灰色砂を除去し終える。その状態を北から写真撮影。木簡出土。
- 6.2 土坑掘り上げ、ほぼ終了。バチで軽く削り、遺構検出。土層名は「橙灰礫土」。
- 6.5 上段で精査。下段では土坑を完全に掘り上げ。SD3825では、暗黒色粘土を掘り下げ。木簡出土。
- 6.6 奈良時代の整地土を「黄色礫土」と命名。黄色礫土の東半分を人工的に掘り下げ、遺構検出。SD3825では暗黒色粘土の除去終了。
- 白斑暗黒色粘土を除去。
- 6.7 SD3825では白斑暗黒色粘土を除去し、暗黒色砂の範囲。その下位の暗黒色砂除去にかかる。
- 6.8 SD3825・暗黒色砂は木屑多い。午後から暗黒色砂下位の灰白色砂を掘り下げ。
- 6.12 溝掘り下げ。2班は、褐色粘土を除去。南北溝を検出。
- 6.13 南北溝SD18222で掘り下げ。
- 6.14 第28次の埋め戻し土があった部分、それを除去。第28次の排水溝も掘り下げる。
- 6.15 南北溝SD18222を完掘・清掃。
- 6.19 水糸配りの残り。実測は半分以上終了。
- 6.20 実測・レベル記入終了。
- 6.21 断ち割り開始。
- 6.22 北壁の実測は図面書き終え。土層名は未記入。回廊部分の断割は、ほぼ下げ終わる。
- 6.23 北壁土層図完成。断ち割り未完。古墳時代の自然流路を探す。
- 6.26 SD3825の掘り下げ完了。断割図面・写真完了。
- 6.27 SD3825の北壁、清掃・分層まで終了。古墳時代の自然流路を検出すべく、掘り下げ開始。遺物取り上げ土層名「暗灰粘土」と命名。
- 6.28 記者発表。現地説明会資料を完成させる。
- 6.29 現説の時の見学予定ルートを決める。
- 6.30 断面剥ぎ取り成功。古墳時代の自然流路（自然木・炭などを多く含む）を検出、掘り下げ。
- 7.1 現地説明会。予想外の人出で、300人以上来跡。
- 7.3 畦の除去開始。白斑暗黒色粘土の上面まで除去終了。自然流路は掘り上げ終了。1スコ分下げる。
- 7.4 畦掘り下げ、未完。
- 7.5 SD3825の畦を撤去し、周囲を清掃のうえ写真・実測。
- 7.6 図面のチェック。砂撒き。断割を埋め戻し。
- 7.7 断割等の埋め戻し終了。調査終了。
- 8.28～30 埋め戻し。ダンプで山土を運び入れる。

P 第316次調査 6ABP-I・6ACC-N

2000年6月19日～2000年11月6日

- 6.16 調査区縄張り。大極殿院高まり上A点より測量。
- 6.19～29 重機掘削。
- 7.3 作業開始。午前は地区杭打ち。全て完了。レベル移動。
- 7.4 調査区東壁面の整形開始。
- 7.5 昨日の夕立により（集中豪雨）、甚大な被害を受ける。
- 7.6 調査区南端排水溝の続き。
- 7.7 南排水溝の続き。22ラインより西を掘

り、完了。南壁の実測をおこなう。

7.10 東端より遺構検出開始。バチで5cmほどめくる。東端部排水溝際には耕作溝があり、耕土が深く入っているため。

7.11 10ラインから西へ表土剥ぎ。前日の続き。5cmほど下の黄褐色粘質土上で遺構検出。耕作溝のみ。

7.12 表土剥ぎ。

7.13 表土剥ぎ。13ライン畦東を終え、畦の西側へ。

7.14 表土剥ぎ。

7.17 14地区南北新溝以西の黄褐色粘質土上面までの掘り下げ。遺構検出。東西畦南・南北新溝西の黄褐色粘質土掘り下げ。

7.18 黄褐色粘質土除去の続き。

7.19 13地区の黄褐色粘質土除去続き。南北溝を2本検出。

7.21 佐紀池への落ちも終わって、整地土面が安定してくる。

7.24 黄褐色粘質土除去の続き。

7.25 10ライン付近より黄褐色粘質土外し。10ライン西1.5m付近で直径40~50cmの穴を6基検出。

7.26 引き続き、黄褐色粘質土外し。発掘区東端まで到達。顕著な遺構なし。

7.27 東から遺構検出の続き。整地層の境界を数条検出。

7.28 11ラインより西へ精査。11ライン西1mに20cm幅の南北溝検出。

7.31 13ライン畦より西の遺構検出。

8.1 精査ののち、15ラインより西の段差部分の土を除去し始める。

8.2 21ラインより東へ、暗灰褐色粘質土剥ぎ。Jラインを挟む位置に幅3mほどの東西溝SD12965を検出。18~19ライン間で、南北溝を検出。SD3825であろう。

8.3 92次調査の南端断割が、想定位置より3mほど南で検出された。

8.4 15ライン西に残った段差の埋土除去作業。NH15地区では埋土除去後の壁面で、NH13地区の暗渠の掘方と覚しき断面を検出。

8.7 下の段は掘削折り返し。「褐灰砂質土」にて遺物を取り上げ。

8.8 下の段、16ラインより西へ、「褐灰砂質土」剥がし。

8.9 上の段、13ライン畦より西側部分の写真撮影。下の段、17ラインより西側の再検出。SD3825Cの東肩を検出。

8.10 実測。

8.11 上の段、H~I間暗渠の掘方探し。

8.16 暗渠の掘方探し続き。

8.17 暗渠断ち割り。14ラインに畦を残し、暗渠の軸線方向に、平瓦の半分の幅で断ち割った。

8.18 上の段、暗渠SX18259と暗渠SX18257外側との関係を確認すべく13~15、G~Kを平坦に削ったが、暗渠につながる南北溝の類は検出されず。

8.21 13ライン畦の東を掘り下げ。ただし、東へ行くほど幅が狭まるので、東から西へ傾斜のある溝か。

8.22 写真撮影。13ライン畦東の掘り下げ。

8.23 13ライン畦東の掘り下げ。Kラインの畦以南は、遺構を掘り下げて、完了。

8.24 13ライン畦東側、Kライン畦北側で掘り下げ継続。92次調査区の発掘面出し、ほぼ完了。

8.25 13ライン畦東、Kライン畦の北側で掘り下げ継続。

8.28 13ライン畦東、Kライン畦の北側で掘り下げ継続。Nライン南の東西溝以外には顕著な遺構なし。

8.29 13ラインの西側およびKライン畦の北側で遺構再検出と掘り下げ。大きな変化なし。

8.30 13ライン西、Kライン畦北の池落ち込み部分の掘り下げ。最底面に灰色の粘土が出てきた。

8.31 Kライン北、13ライン西の落ち込み掘り下げ完了。

9.1 南北溝SD3825C掘り下げ。東西溝SD12965との合流点を下げる。

9.4 SD3825C掘り下げ、南端の断割を下げると、東肩に粘土層が潜り込んでいくのが確認された。

9.6 南西隅部整地の掘り下げ。B期(本書Ⅱ期)整地土の青白シルト面の上にかぶる「暗褐灰砂質土」を下げる。

9.8 SD3825の埋土は、大きく3時期となる。

9.13 9月9日から降り続いた雨のため、現場水没。午前中は復旧作業。記者発表。

9.14 空撮のための掃除。11:40から空撮。

9.15 13:30より現地説明会。

9.18 現説の後片づけ。午前中にて終了。

9.19 午後の写真のための掃除。写真撮影。高所作業車にて撮影。

9.20 午前中、写真撮影。20ラインより西の整地土を下げる。

9.21 水糸張りおよび平面実測。

9.22 20ライン畦西、東西溝南の整地層「暗灰褐粘質土」外し。顕著な遺構はみあたらない。

9.25 南北溝SD3825B掘り下げ継続。暗褐

色粘土下の層を「灰白砂」と名づける。

9.26 溝断面を I ライン畦北壁、南壁で瓦確認へ。解釈変更。ブロック状に粘土層が入っているものと判断。

9.28 SD3825Bの掃除。ほぼ完了。とともに、瓦敷込み層SX18256の掃除 (実測完了)。調査区西端の建物SB12960と南北塀の柱穴を各3、2基割る。

9.29 SD3825BおよびSX18256の写真撮影。暗渠断ち割り。

10.2 上段暗渠で断ち割りの続き。SX18256の掃除の瓦取り上げ。軒瓦は番号を付して取り上げる。SD3825Bの実測を終え、平面実測ほぼ終了。

10.3 NK18地区のSD3825Bの掘り下げ。木簡2点出土。

10.4 南排水溝13~15ライン掘り下げ。

10.5 南排水溝13~15、15~18掘り下げ。

10.6 南排水溝15~18ライン部分掘り下げ。木炭層は東西に通る。

10.10 SX18259の南北畦を除去したところ、瓦の抜取痕らしき痕跡を検出。

10.11 Kライン畦の北側で断ち割り。13ラインから18ラインまでをすべて断ち割る。

10.12 13ライン畦西側の掘り下げ。Jライン南50~200cmの間を下げる。

10.13 20ライン畦西側の断ち割りと、SD12966Aの確認。SD12966Bの下位を下げたところ、Lライン付近で大量の木屑を含む層が出た。

10.16 Kライン畦東端断ち割り。掘り下げ。灰色の傾斜する砂層を下げると、直下に淡青灰色砂礫が出てきた。10ライン東でテラス状になる。

10.17 Kライン畦東の飛びトレンチ実測。暗渠SX18259の再考。

10.19 暗渠SX18259の南側にあるSX18257の精査。

10.31 本日終了後、プレハブ撤去。SX18257直下の瓦土坑の調査。

11.6 SX18257および暗渠4に取りつく南北溝の精査。平面形状のみ記録。以上で全調査を完了。

Q 第319次調査 6ABO-H

2000年10月13日~2000年12月15日

10.12 南北12m×東西6mの縄張り。

10.13 重機掘削。

10.16 重機は排土の移動。

10.17 まずベルトコンベアを並べる。排水溝(西・南)掘削。

10.18 HQ80地区の南側で西面掘立柱塀SA13404らしき掘方を確認。

10.19 O以北で「赤茶土」を下げると、幅4m近い溝状のラインがみえるので、北壁にトレンチを設定。

10.24 M~N区の上土を「赤茶土」で取り上げ。HN80地区で南北溝を検出。

10.27 HP81地区で柱穴を検出。抜取のエッジに瓦を立てている。抜取の瓦はかなり高い面からみえていた。

10.31 穴を深掘りしたところ、凝灰岩の礎板がでてきた。

11.6 このあたりに礫敷のような遺構あり。排水作業をおこなう。

11.7 久しぶりに本格的な発掘。これまで検出していた面を再確認し、掘り下げた。P~Qラインでも南に連続する穴を確認しつつある。

11.8 掘立柱塀SA13404が回廊の隅まで達していないことが判明。

11.9 拡張区の地区杭打ち。基準点をもう一つ設置する。南半は既発掘区で、穴の埋土を掘り上げた。

11.14 柱穴と断定できる遺構が出てこない。

11.16 思い切って掘り下げるが遺構らしい遺構なし。遺物もまったくなし。

11.20 まず、排水作業。調査区はプール状態。

11.21 HK80地区の井戸で遺物取り上げ。

11.22 朝から大掃除。井戸の横で穴らしきもの1基発見。井戸の発見におどろく。

11.24 平面実測。

11.27 平面実測完了。

11.28 排水後、断ち割り開始。

11.29 断ち割り。HN80地区の柱穴1、HP80地区の柱穴1、HL81地区の柱穴1、完了。

11.30 HM80地区の柱穴1は、東肩を広げると巨大な横長柱穴となることがわかる。上に乗っている南北溝を掘り、平面を検出。

12.1 HK80地区の柱穴1の断面図を実測。いちおう柱痕跡も確認。

12.5 東西トレンチには、整地土の差はみられるが、柱穴らしき遺構はない。HN80地区の柱穴と平行する柱穴を西壁で確認した。

12.6 昨日、発見し下げた暗渠の溝。西壁の線引きと写真撮影(午前中)。

- 12.7 北壁の線引きと写真完了。壁に水糸を張る。壁の線引き（東壁南端）。写真完了。
12.11 Qライン北の東壁に明確な落ちがある。基壇端の可能性あり。
12.12 西壁を北から描く。81ラインの柱穴

R 第337次調査 6ABR-E・6ABS-D

2001年10月15日～2002年8月27日

- 10.11 基準点測量。発掘区縄張り。
10.15 西南隅から重機掘削を開始。
10.16 重機掘削。調査区南辺で排水溝掘削。
10.18 重機掘削再開。レベル移動。
10.19 58ライン付近から床土除去を続行。耕作溝を掘る。
10.22 床土除去続行。状況は変わらず。56/62付近まで進む。
10.23 昨日に引き続き、床土除去。耕作溝掘り上げ。
10.24 地区杭打ち。畦の設定。床土除去。
10.25 55/61ライン東1.5mから床土除去。54ラインの少し東まで進む。
10.26 床土、除去続行。53ライン畦まで到達。
10.29 南北の畦から東へ向けて、順調に上土取りを続ける。午後には、調査区東端に達し、折り返しに入った。東西畦の東側では礫敷面を清掃。
10.30 礫敷面検出。52/58ラインから53/59ライン畦東まで進む。
10.31 53ライン東1m～54ライン付近で礫敷面検出続行。礫敷面はほぼ水平と確認。
11.1 礫面検出続行。
11.2 礫面検出続行。EC54地区・ED54地区の根石は小砂利に覆われている。ED55地区・EC55地区にも根石か。
11.5 礫面検出続行。57・63ラインに畦設定。
11.6 午前は降雨のため作業中止。午後、礫面検出。解説ボランティア対象の現場説明会を実施。
11.7 礫敷面検出続行。下の段は57/63ライン畦から西で礫の残りが良くなり、遺構検出面となりそうである。
11.8 下段礫敷面検出。西壁土層の分層。
11.9 礫敷面の写真撮影。11:00から地上写真。50分の1で礫敷面の実測をおこなう。
11.12 礫敷面外し続行。58/64ライン西1m～56/62ライン西1.5mまで進む。EA～ECにかけて回廊基壇土があらわれる。
11.13 礫敷除去を続行。56/62ライン西1.5m～55/61ライン東1mまで進む。西楼SB18500西妻通りの第2柱・第3柱掘方を確

にそろそろ柱穴を確認。

12.13 西壁の実測と土層注記完了。砂を撒き撤収。

12.15 3名で水抜き穴埋めしてから、重機で埋め戻し完了。スライドで写真を撮った。

認。西第2列の中央2柱の根石据付または抜取穴確認。南側柱と北側柱は、掘立柱のほうであるが、掘方が完結しない。

11.14 礫敷除去を続行。55/61ライン東1mから53/59ライン畦を越える。中柱は根石・据付穴を確認したが、北側柱は礫多く難渋。

11.15 礫敷除去終わり。52/58ラインに到達。リターンにかかる。礎石の根石4箇所を確定。

11.16 平面検出。EE55地区で柱穴を確認、EE54地区にも柱穴あり。

11.19 平面検出。ED57地区の柱穴は抜取見極め困難、EC57地区・EB57地区では抜取穴が西へ延びる模様。

11.20 平面検出。西妻の柱はすべて西側へと広がる大きな抜取穴をもつと判明。

11.21 平面検出を終え、検出した遺構を確認。

11.22 写真撮影の準備。調査区西半全面を掃除。瓦堆積の瓦を洗う。地上写真、全5カット。

11.26 東半区、床土除去。52/56ラインから東へ進む。西半区では水糸を張り、実測開始。北西からかかる。

11.27 調査区東半では床土除去。西半では実測作業進む。

11.28 調査区東半では床土除去続く。47/53ライン畦まで進む。礫面までは、二番床一枚を残している。

11.29 調査区東半では床土除去。47/53ライン畦から東3mまで進む。

11.30 東半では床土除去。ほぼ東端まで到達。西半では実測・レベル記入。

12.3 東半、床土除去、77次埋め戻し土を除く。礫面検出。西半では平面実測終わり。

12.4 床土を除去し礫面検出。Dライン南1mから北は、礫が疎らになる。

12.5 東半、礫面検出。47ライン畦まで仕上がる。47ライン西2.5mまで床土除去。

12.7 東半、礫面検出。EEライン畦の北側と、EDライン付近に瓦散布。

12.10 東半礫面検出。48ラインから仕上げ、

49ラインまで。

12.11 49～51ラインで礫面検出、耕作溝を掘る。50ライン以東は、基本的に終了。

12.12 東半、礫面検出。

12.14 前日が雨のため、排水作業。東半は全面シートをめくる。52ラインまで礫検出。

12.17 52～48ラインでは写真撮影に向けて礫敷を露出させる。北壁東半のセクション。

12.18 東半で掃除。

12.19 西半で掃除。

12.20 本日、写真撮影。

12.26 土層の実測。

12.27 土層の実測。

12.28 本日、撤収作業。ベルトコンベアを朝集殿院南門に搬送。

2.6 調査区をシートで養生。

4.1 本日より、第337次の後半戦開始。調査区全域を覆う礫敷SX18511（「上礫」と呼ぶ）を除去し始める。

4.2 前日に続き、東から西へ上礫を除去する。

4.3 50ライン畦まで柱穴検出。抜取なしで掘方のみか。

4.4 上礫の除去は52～58ラインまで到達し、ほぼ完了。柱穴の検出に手間どる。

4.5 作業は、55ライン少し東まで進む。52ライン以東は、2001年度で上礫を露出させており、泥を除去するのみ。

4.8 作業は56ライン付近まで、北・南の端でかなり手間どる。

4.10 西端に到達したので、掘削折り返し。西楼最終段階（I-4期）の姿をめざす。

4.11 57ライン以西の精査と、遺構半下げ。秋の調査で基壇外縁を示すと思われた豆砂利と細砂は、実は上下の関係。細砂が豆砂利の下位。

4.12 55ライン付近まで戻る。同時に西柱列北1・2柱の抜取西端確認のため。ED-EF付近の床土と上礫とを除去する。

4.15 本日は、南北溝SD18508を掘削。その壁面で土層観察、西楼の基壇土積み足しを確認。下底でI-1期の下層礫敷？を検出。

4.16 拡張区の掘り下げ。床土を外して「上礫」、検出をほぼ終える。

4.18 DEライン以南59ライン以西の下段で上礫を除去。

4.19 拡張区を清掃。DEライン以南で上礫を除去する。瓦だまりを写真・実測。

4.22 DEライン以南では上礫を除去。瓦だまりの写真撮影実施。

4.23 東北部の瓦だまり地上撮影のため、DEライン以北の柱穴半下げ。足りなかった

回廊礎石据付穴も検出。

4.24 瓦だまりの図面作成。77次断割の断面観察で、南面築地回廊SC7820の掘込地業を確認。DEライン以南で掘込地業の南端を平面的に検出する。

4.25 瓦だまりを取り上げ、豆砂利を露出させる。西楼SB18500の東西基壇縁を検出。築地回廊北縁の見切石を検出。

4.26 昨日確認した回廊北雨落溝（見切石）および基壇外装抜取溝を、西でも探す。結果、わずかに見切石を検出。雨落溝、外装抜取溝も検出した。

4.30 地上写真。

5.1 水糸張り、実測。

5.2 実測。一旦、シートかけて連休迎える。

5.7 実測。

5.8～9 レベル記入。

5.13 本日より断ち割り開始。

5.14 西楼、柱穴ニーは西北を4分の1残してほぼ掘り終える。木簡「…大夫宣…」他削り屑等出土。

5.15 柱穴ニー掘り下げ。

5.16 記者発表。11時より現地説明会。

5.20 柱穴ニー掘り下げ。木製品出土数点。

5.21 柱穴イー・ニ二・イ二断割で北壁・西壁の図、写真。

5.22 柱穴イ四・ニ二・ニ三の南半を掘り下げ。作図にはいならず。

5.23 柱穴ニ三～ニ二は、抜取穴の南端が東西畦の付近まで延びる。柱穴イ三・イ二では、木屑層が粘土化している。イーは断面を再検討。

5.24 柱穴イーは掘方・抜取穴を平面で確認。平面図・断面図作成のうえで西南部4分の1掘り下げ。柱穴ニ三は西南部4分の1を15cmほど下げ、抜取穴を再検討。

5.27 柱穴イ二・イーは抜取穴の東北部を掘り下げ。柱穴イ三は抜取穴埋土を掘る。柱穴ハ三では精査・作図。礎石抜取穴は深く、下層礫敷を突き抜ける。柱穴ニ三・ニ二は掘方・抜取をプランで確認すべく断ち割り。

5.30 西楼西半に入る。ニー・ハーでは柱掘方を掘ってから基壇を積み足し、これに中層礫敷・上礫が敷かれる。

5.31 柱穴ニ四東南、ニ三東北は灰褐色土。黒褐色より木屑。イー東南の断割より、朱塗り柱出土。

6.3 ニ二西北部の黒褐色土中より、木簡・網代出土。

6.4 柱穴イ四は東西断面図を作成。ニ三では畦撤去。イ三・イ二・イーで平面精査。ニ

二ではカゴ取り上げ。二三～二二は北側の平面精査。

6.5 柱穴二一で断面図作成。イーでは東北部掘り下げ。二二～二四では西楼基壇北縁のプラン精査。イ二は西北部掘り下げ。二四は西南部、イ四は東北部を掘り下げ。

6.6 柱穴二五は南半畦半分外して、プラン精査。ハ五～四では東南部4分の1を掘り下げ。二四は西南部終わり。イ三・イ二は掘り下げ、イーは仕上げ。

6.7 柱穴精査継続。57ライン南北畦、東壁精査。

6.10 柱穴ロ六・イ六・二五・ハ五・イ五・二四・イ四掘り下げ。イ三・イ二境界畦の断面図作成。

6.11 柱穴イ三・イ二で境界畦除去。ハ六～四・二五・イ五掘り下げ。

6.12 柱穴二五東北部掘り下げ。イ三では断割南北壁北半を作図。

6.13 柱穴ハ五は抜取西南・東北を掘り下げ。イ五は掘方壁の精査。二六では抜取穴・掘方の精査。ハ六・ロ六では断割壁面の精査。イ六では隅木蓋、柱矧ぎ木出土。ロ五ではベース土を下げて遺物探し。

6.17 午前中に礎石写真撮影。

6.18 二六・ハ六では掘方を掘り下げ。ロ六では南北断面南半、図終わり。二五南辺で掘方埋土の東西断面図を作成。二四の埋土の壁崩落は除去終わり。

6.19 二六・ロ六・イ六・イ五で掘り下げ。ハ六では東南断面の写真・作図。

6.20 二六-ハ六間の東西畦外し、遺物は「上礫」で取り上げ。ハ六では東南部を50cm拡張。ロ六では東北部の掘り下げ。イ六では掘形西南隅の壁きれいになる。イ五では東西断面西半の断面図を作成。

6.21 ハ六抜取穴西南部を西へ50cm拡張。ロ六・イ六では東北部掘り下げ。二五では西北部掘り下げに着手(比較的大きな木片、上層より出土)。二一-ハ一間の東西畦外しに着手。二五、二一-ハ一間は戻ってきた1班による。イ五は図面完了のうえ、木屑層(黒褐色土)まで西北部下げる。

6.24 二五・イ三は西北部完掘。イ五は掘り下げ終わり。二六-二四断面図作成。ロ六では崩落部清掃。イ六では東壁を精査。

6.25 二六では計算値柱心で断面図を作成し、西へ50cm拡張、西南部を掘る。二五-二六間で断面図作成。ハ六では南北壁南半を50cm拡張作図。ロ六は抜取穴を完掘。イ六-イ五間の断面図作成。

6.26 二六・ハ六は西南部掘り下げ。ロ六は掘り下げほぼ終わり。イ六では西北部掘り下げ。二一-ハ一間では畦外し。瓦敷を除去してプラン検出。ハ一は東北部を掘り下げ。

6.27 柱穴二六・ハ六・ハ一西北部と、ハ六・イ六東北部掘り下げ。

6.28 全景写真撮影。

7.1 柱穴イ六抜取内の礎石取り上げ。資料館講堂南へ仮置き。

7.2 二六西北部、ハ六・イ六西南部掘り下げ。ハ五～ロ五断割では下層礫の面で平面図作成。

7.3 二六・ハ六掘り下げ。ハ五～ロ五間断割は分層中。53ライン断割で下げ開始。

7.4 二六・ハ六西北部、イ六東北部掘り下げ。ハ六より礎石。ハ五～ロ五で作図・写真。53ライン畦西断割は整地土まで掘り下げ。

7.5 二六・ハ六西北部掘り下げ。ハ六では齋串が立った状態で出土。イ六完掘。

7.8 二六で掘り下げ。ハ六・イ六の掘削は1.5mを超える。

7.9 二六で東西壁、南北壁南半の断面図。ハ六は抜取内礎石を撮影。イ六では東西壁実測し、柱穴底地山(灰色～褐色砂)確認。ハ五-ロ五間断割では、整地土中より「和銅三年」紀年銘木簡出土。イ六は壁を養生。ハ六は1.5m程度掘り下げ後、北半掘り下げ部養生。

7.11 二六は畦撤去後、南半を下げる。柱穴底をめざす。ハ六では抜取北半を柱穴底まで掘り下げ。二四は東北部を底まで下げる予定。二五-二四間、抜取を掘る。

7.12 二六は北半を柱穴底まで完掘。二四西南部掘り下げ後、作図のうえ北半を下げる。EC-ED間で、西楼基壇積み足し部を平面検出。

7.15 二四で西北部掘り下げ。南北壁北半は作図おわり。さらに下げるが湧水激しい。イ四西南部掘り下げ、齋串が出土。イ五は壁崩落のため、整地土の黒褐色砂で遺物探し。ハ五～ロ五断割は西楼積み足し基壇土を除去中。

7.16 台風の影響も少なく、朝から作業するが、コンベア設置で時間費やす。

7.17 二四は西南部を底まで下げ、図・写真終了。イ四は西半を1m近く、二二は東北部を1m近く下げ、それぞれ図・写真終了。二五北側で断面図作成。53ライン南北畦、五列柱穴は再検討。50ライン南北畦西断割、夕方より下げ始める。

7.18 二四断面図終わり。イ四では齋串が出土。二二では西北部、イ二では東北部掘り下げ。なお、1.5m以深の遺物は「灰砂」で取り上げた。

7.19 午前、悪天候のため中止。50・53ラ

イン畦西を幅50cmで断ち割り。イ四断割は底まで下げ、断面図・写真終了。ニ二は「灰砂」を1m下げて、断面図・写真終了。イ二は東北部断ち割り、斎串出土。

7.22 イ四で掘方南北端を検出。ニ二西北部、イ二東北部掘り下げ。50ライン畦西断割・53ライン畦西断割で掘り下げ。

7.23 ニ二西南部、イ二西北部を掘り下げ。東西壁南半、写真済み、図未。53ライン断割は写真済み、図途中。50ライン断割は精査中。午前9時より、奈良TVビデオ製作。

7.24 ニ一付近は西楼外装抜取溝を再精査。50ライン断割は回廊北雨落溝に拳大礫を詰めている。ニ二・イ二は東南部掘り下げ中。

7.25 西楼外装抜取、再精査。平面で抜取溝を確認。ニ二・イ二で東南部掘り下げ。ニ一では抜取穴の壁で外装抜取を見出す。ハ一東部下げ始め。木屑層より木屑集中。47ライン畦東断ち割り始め。

7.26 ハ一で木屑層まで掘り下げ、図・写真。ニ二:東南部下げ。木杭が地山まで深く刺さっている。イ二は北半掘り下げ、ほぼ底。47ライン畦東では回廊部分を断ち割り中。ハ五-ロ五間断割は地山まで達し、図・写真。西楼、基壇外装抜取溝、平面図書き直す。

7.29 ニ二は西半を、イ二・ハ一は東南部を掘り下げ。53ライン畦西断割は地山まで達する。47ライン畦東断割で掘り下げ。

7.30 ハ一東南部ほぼ終了。柱推定心に南北トレンチを入れる。イ一は南半下げ始め。ニ二東南部では清掃後、写真撮影。人なし、人あり、3~4パターン撮る。イ二掘り下げ終了。図終了。53ライン断割は地山に達する。EB付近まで。47ラインは整地土まで掘り下げ途中。

7.31 ハ一西南部で木屑層取り上げ。ほぼ終了。イ一は南半下げ。木杭、抜取埋土に刺

さって出土。柱位置示すか。イ二では先端加工丸太材の出土状況写真。53ライン断割は地山まで下げ、作図中。47ライン断割はベース土まで掘り下げ。

8.2 イ一は東西壁分層。47ライン断割はEEライン以北でベース土までほぼ掘り下げ。50ライン断割は図・写真まで終了。

8.5 イ一で平面・断面図終了。47ライン断割断面図は、土層注記のみ残る。53ライン断割はEG~EH付近で地山まで下げ、図・写真終了。北排水溝は南北畦延長部を長さ1m、地山まで下げ。47ラインは掘り下げ終了。図・写真終了。

8.6 イ一で杭3本取り上げ。作図後、砂撒きまで終了。47ライン断割は図・写真終わるが注記残る。北排水溝は地山まで下げ終了。53ライン以西、分層途中。西排水溝はEE以北で作図・写真終了。以南は清掃。

8.7 排水溝内に溜まった泥さらえ。壁清掃。分層を継続中。北壁では図・写真完了。西壁は分層、写真済み、図途中。南壁は53-59ライン以西で分層・写真済み。西北隅は地山まで下げ。柱穴ニ一内で砂撒き終了。57-63ライン畦東断割で分層・写真済み。DEラインの北1mまで図済み。

8.12 掘込地業の西南隅を坪掘りで平面検出。平面・断面図作成し、写真撮影。

8.16 砂撒き、撤収。作業員全員投入。ほぼ終了。

8.19 フェンス撤去、撤収。完了。

8.22 柱穴の埋め戻し開始。30cmほど土を入れて填圧を加える。

8.23 湧き水激しい柱穴ニ四は、底に碎石を10cmほど敷いて埋め戻す。

8.27 埋め戻し完了。

S 第360次調査 6ABR-E・6ABS-D

2003年7月2日~2003年10月3日

6.20 調査区の設定。

6.23 探査の予備実験。

6.24 調査区、フェンス張り。杭打ちは完了。

6.25 探査(本番)。

7.2 重機掘削開始。レベル移動をおこなう。

7.3 重機による盛土除去ほぼ終わる。

7.4 昨夜の大雨にて調査区水没。ポンプ2台で排水する。盛土の掘削終了。

7.7 重機で表土掘削。段差の北側は表土直下、南側は遺構面直上まで掘削する。

7.9 調査区壁面を削る。土嚢をつくり、ベルトコンベアを並べる。午後は北側から人力掘削を開始、耕作溝を掘る。

7.10 床土の上層(黄褐色土)で耕作溝を検出。礫層上面まで掘り下げるか。

7.11 EGライン南側で灰褐色土を削り、灰白色土で遺構検出。水田畦畔にともなう溝の下底で礫敷が顔を出す。I-3期およびII・III期の礫敷に対応か。

7.14 週末の大雨で調査区が水没。排水作

業をおこなう。Dライン付近では、灰褐色土の下位に礫敷あり。第296次調査区再発掘完了。

7.15 Eラインの南にも、灰褐色土を除去すると礫あり。Eラインの南約50cmで土の変化がみえる。南面築地回廊の北雨落溝北端か。

7.16 Dライン南から精査。EB59・EB60に柱穴らしきものあり。DEラインの北側、296次東壁で南雨落溝の断面観察。礫敷直下に礫を詰めた溝がある。

7.17 調査区東肩付近の耕作溝を基壇上面まで掘削。EA60地区の大土坑SK18594は、基壇を覆う礫敷SX18581の上から掘り込んでいる。

7.18 南から礫検出。DEラインの北約1.5mでベース土の違いがあらわれ始める。

7.22 本日より、夏時間実施。写真のため、ECラインより礫出し作業。

7.24 午前中、EFラインより北側で掃除。第337次調査区の際で礫敷あり。北へ続き、トレンチ北端付近で西へ広がる様子。

7.25 礫敷面はそのまま、北側のみ掃除。午前中に写真撮影。午後、北側から茶灰白色粘質土直下まで掘削。

7.28 調査区北端に排水溝を掘る。豆砂利面あり、西側では礫が薄く、砂のみの箇所あり。50分の1平面図、実測終了。レベル記入は南半終了。

7.29 II・III期の遺構面で全景写真を撮影。基壇を覆う礫敷SX18581(「上礫」)の除去を開始。

7.30 午前、雨により作業中止。午後はEDライン付近より南側で上礫を除去する。

7.31 基壇土上の上礫を除去。ECラインから南へ掃除。EAライン付近で南面築地回廊の礎石掘付穴の検出にかかる。

8.1 EAラインの礎石抜取穴および掘方を検出。いずれも現存基壇の肩にて検出。

8.4 6ABS区東半の東西溝について解釈に悩む。67ラインより東1.5mまでは南北の肩(黄灰色粘質土)を確認。

8.5 ECラインの北側で北側礎石列を4基検出。基壇の北端検出。

8.6 EDラインの北側で瓦だまりSX18585検出。EEライン以北で瓦途切れ、豆砂利層が露出。

8.7 SX18585実測(20分の1)ののち、ヤグラ3段でSX18585と豆砂利を撮影。

8.11 午前は台風一過の後始末。中央畦の東側で瓦層を取り上げ、北雨落溝SD18595の南肩を検出する。

8.12 午前中は撮影のため掃除。雨が断続

的に降るため中断。待機多し。午後は基壇部分、豆砂利および下層礫敷の写真撮影。

8.18 明日空撮のため排水作業。調査員は実測。

8.19 空撮。

8.20 午前中、ED59~63地区(畦の東)について、北雨落溝を掘り下げ。溝底部に露出した礫は下層礫敷であろう。

8.21 畦東側の断ち割り。記者発表準備。

8.22 現地説明会の準備。

8.23 現地説明会。

8.25 現説撤収ののち作業員へ現場の説明。午後、畦東側で基壇の断ち割り開始。

8.26 畦東側で断ち割りを続行。基壇の内側で整地層直上の礫層まで掘り下げ。内庭部も断ち割り。

8.27 畦東側の断割で、礫の多い面を確認。内庭部の断割では中層・下層礫敷の区別難しい。

8.28 内庭部の断割では、中層・下層礫敷依然として区別困難。ただし、中層は黄灰褐色土、下層は灰白色の砂である。

8.29 畦東側の断割で整地層の掘り下げ。礫面の下から整地層と判明。整地層直下の黒灰色粘質土に木質あり、土ごと取り上げる。

9.1 畦東側の断割で北雨落溝付近を確定。

9.2 調査区北辺で排水溝の掘り下げ。EG62地区にて、黒灰色粘質土あり。実測図にプラン・レベルを記し、土ごと取り上げ。

9.3 現場班全員による、北雨落溝断面の確認。礎石抜取穴の断ち割り順次完了。東側排水溝(337次)の下層に木片を含む黒灰色粘質土あり。木片の多くは燃えさしで、墨痕はなし。

9.4 ED61・ED62地区で中層礫敷まで掘り下げ。

9.5 ED62地区で回廊北雨落溝SD18595Cの北側を掘り下げ。見切石は写真撮影ののち外す。63ラインの東側では中層礫敷を除去し、雨落溝の見切石を出す。

9.8 ED52地区、51地区、雨落溝付近の掘り分け。午後雨落溝の写真を撮るが、その後雷雨。

9.9 写真撮影。ED52地区では北雨落溝SD18595の実測・レベル記入。

9.11 北雨落溝SD18595Bとその見切石SX18600の写真撮影を実施。ED60・ED61柱穴(北雨落溝の下位で検出)断ち割り。ED62雨落溝付近で10分の1実測図作成。

9.12 北雨落溝の検討。下層雨落溝→中層素掘り雨落溝→中層礫を敷く→上層雨落溝と変遷。

9.16 ED52地区レベル記入。ED59地区では

中層礫敷下層で遺物取り上げ。この小地区の東半では中層礫敷みられず。

9.17 ED59地区断ち割り続行。上層礫敷を掘り上げ、中層礫敷の上面で写真。見切石と思しき石列を確認。

9.18 ED59地区断割、礫のたたき出しののち写真、東から3カット。東壁の土層図線引き。6ABS区、畦西側の砂撒き完了。

9.19 実測。ED59地区で掘り下げ箇所を平面図。北壁にて中層礫敷が東へと高まるのを確認。

T 第389次調査 6ABS-C・D

2005年3月29日～2005年8月2日

3.29 重機掘削開始。

4.5 東区の重機掘削終了。西区へ移る。

4.7 作業員投入し、ベルトコンベア設置。

4.8 排水溝掘削。西区の重機掘削終わる。

4.11 北側から耕作溝の検出を開始、DCラインまで進む。

4.13 排水作業ののち、DC～DBラインで耕作溝を検出。

4.14 西区で耕作溝の検出。

4.15 西区で耕作溝の掘削。東区の重機掘削終了。

4.18 西区では耕作溝の掘削続ける。東区では第376次の埋め戻し土を除去。

4.19 西区では第77次の埋め戻し土を除去。東区では排水溝を掘り、耕作溝を検出。

4.21 西区では床土の除去。東区では耕作溝の掘削続く。

4.22 西区ではDC-DD間で床土を除去し、バラス敷を露出させる。東区では床土の除去。

4.25 西区では床土の除去、DCラインの南まで進む。東区はCRラインまで。

4.26 西区では礫出し作業を中断し、床土を除去。東区ではCSラインまで床土を除去。

4.27 西区ではDAライン以南で床土を除去。バラス層まで掘り下げることが安定せず。東区はCTラインまで床土を除去。

4.28 西区ではCSライン以南で床土を除去、48ラインの東側に礫敷よく残る。東区ではCTラインまで礫を露出させる。

5.9 西区では床土の除去と耕作溝の掘削。東区では床土の除去がDAラインまで進む。

5.10 西区では下ツ道西側溝SD1900の上面バラスを再検出。東区の床土除去はDBラインまで進む。

5.11 西区ではCT～DBラインで水田畦を除去。東区ではDBライン付近で床土を除去。

9.22 ED52地区、北雨落溝でレベル記入。ED63地区では東畦西壁線引き。63～69ライン畦東にて、第296次で検出している基壇計画礫と思しき溝を精査するも、地山面でも検出できず。

9.26 土層断面図作成など。

9.29 中央畦は土層注記まで終了。

9.30 平面図にレベル記入。断面図は終了。砂撒き完了。

10.1～3 重機による埋め戻し。

5.12 東区ではDDライン上で凝灰岩を検出。大極殿院南門の階段に関係か。

5.13 西区では全面の掃除。東区では凝灰岩をさらに検出、その北側でバラスが小粒になる。

5.16 空撮前日の掃除。

5.17 11時より空撮、その後地上撮影。

5.18 西区で地上撮影。

5.19 西区では暗灰色粘土を除去。東区ではバラス層を除去。

5.20 西区北東部で土坑SK18799を掘り下げ。東区ではバラス層を除去。

5.23 西区ではバラス混じり土を除去。西区ではCSラインまで掘削進む。

5.24 西区ではバラスを含む層を除去、小穴群SX18808みつか。玉石舗装の抜取痕跡か。東区ではDAラインまでバラスを除去。

5.25 東区でSX18808さらに検出。この痕跡はCSライン以南で疎となる。

5.26 西区ではSK18799を掘り下げ。東区ではCP-CR間で15cm掘り下げることが、明確な遺構なし。

5.27 西区ではSK18799の北肩を検出。東区では南から精査を開始。

5.30 西区でSK18799の掘削。

5.31 西区のSK18799で礫の集中する範囲あり。東区では第77次の埋め戻し土を除去。

6.1 西区ではSK18799内の礫を露出させ、写真ののち撤去。ベース土とみられる灰色砂で止める。東区では第367次調査区の精査。

6.3 西区・SK18799内の礫はすでに底部か。一旦は礫の除去を止める。東区では第367次調査区内で精査。

6.4 西区では大極殿院南門SB7801の掘込地業際の灰色砂質土を掘り下げ。掘込地業の南西隅を確認。

- 6.6 西区ではSD9184を掘り下げ。東区では畦の東側で礫敷面を出す。
- 6.7 西区では遺構面安定せず、第77次の検出面まで下げる。東区ではSX18808を検出。
- 6.8 西区ではSK18799の下層（灰色土）を掘り下げ。東区ではSX18808の北限探し。DCライン付近で柱穴3基みつかる。
- 6.9 西区では下ツ道西側溝SD1900の検出作業。西区ではDCライン付近で東西方向の柱穴列SA18800を検出。南門の階段付近では小石敷SX18794の範囲確認と、地覆石抜取穴を探す。
- 6.10 東区で検出した柱穴と一連の柱穴を探す。西区では41ラインまで柱穴探し。南門付近では、I-1期南階段の地覆石抜取痕跡SX18793Aを確認。
- 6.13 西区では最終仕上げ、東区で掃除。
- 6.14 全景写真および部分写真の撮影。
- 6.15 午前中に空撮、午後は現地説明会の準備。
- 6.16 記者発表。
- 6.17 現地説明会の準備。
- 6.18 現地説明会。600人弱の聴衆集まる。
- 6.20 現地説明会の片づけ。西区の実測作業完了。
- 6.21 西区では南北溝SD9184を掘削、南北方向に並べた木材を検出。随所で柱穴断ち割り。東区では平面図の作成終了。
- 6.22 西区、SD9184で木材をすべて検出。柱穴の断ち割り進める。
- 6.24 西区ではSD1900断割で写真。東区では第367次で砂撒きを開始。
- 6.27 西区では柱穴の断ち割り。東区でも断ち割り進む。
- 6.28 西区では畦の分層、東区では小穴群SX18808の写真撮影などおこなう。
- 6.29 西区・SD1900が2時期からなると判明。東区ではSX18808を精査、凝灰岩の付近で現水路際まで拡張。
- 6.30 西区・第77次排水溝で石詰めの暗渠が2時期からなる可能性浮上。階段付近の拡張部では凝灰岩片および据付痕跡を確認。
- 7.5 東区で小穴群SX18808の埋土を掘り上げ、写真撮影。
- 7.6 SD1900の埋土掘り下げ、写真撮影。東区では瓦だまりの断ち割り。
- 7.7 SD9184出土木材のレベル測定ほかを実施。東西区で砂撒き始める。
- 7.8 SD9184出土木材の構造を精査。東区では東西方向の柱列SA18800が現水路際まで延びていることを確認。
- 7.12 東区・南門の階段部分で南北方向に断ち割り。掘込地業の南端と、小石敷SX18794の南端とを確認。
- 7.13 東区・掘込地業の断割で実測図作成。西区ではSD9184の両岸で精査、西岸で穴を検出。
- 7.14 西区ではSD9184の木材取り上げ。溝の西肩で柱穴SX18801・18802を確認。東区でも南北溝SD9183の東肩でSX18797・18798が並ぶ。
- 7.15 西区のSX18801・18802と、東区のSX18797・18798で断ち割り、建物の柱穴でないことを確認。南門の階段付近では上層の地覆石据付痕跡および抜取痕跡を検出。
- 7.19 埋め戻し開始。
- 7.20~8.2 埋め戻し。